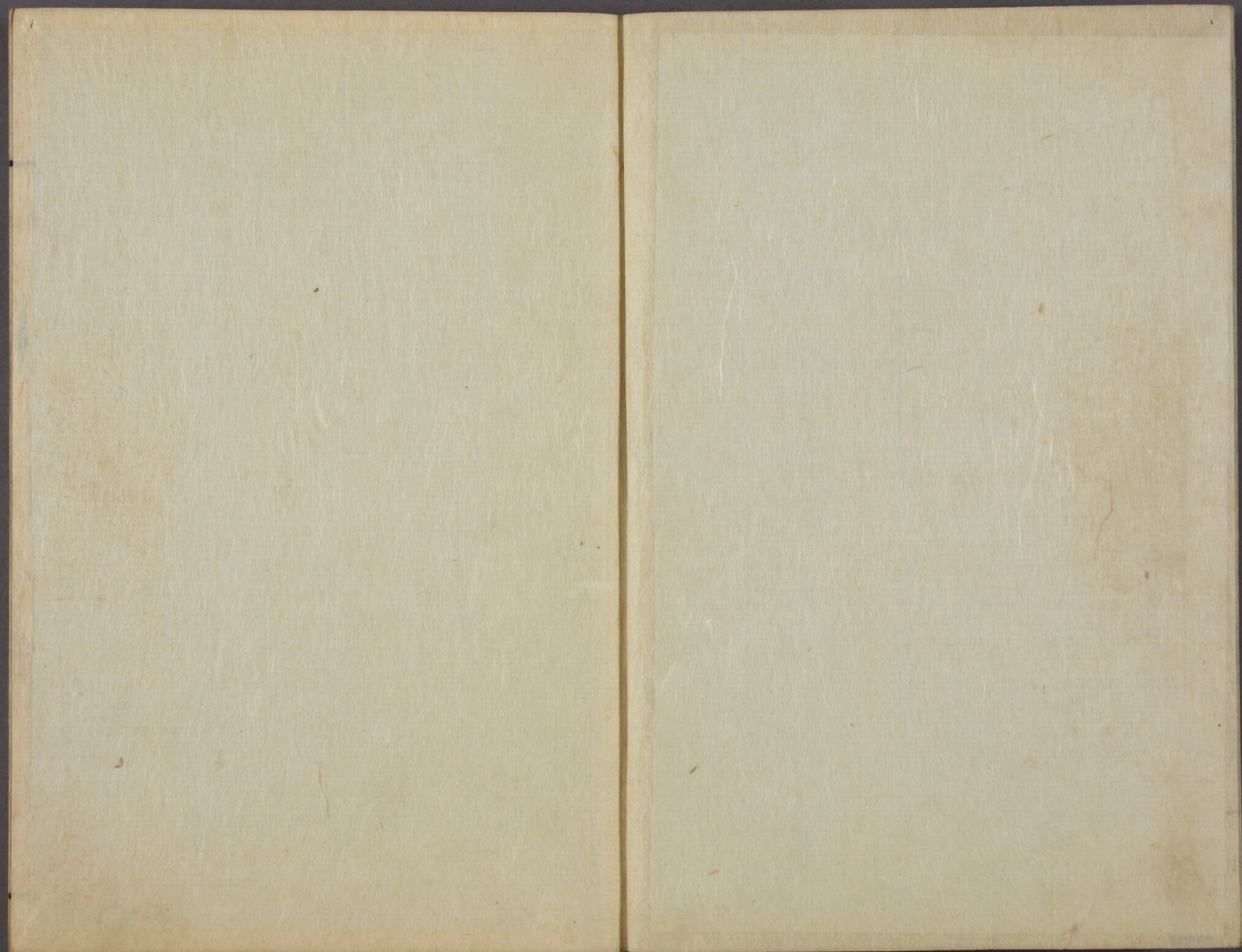


古今集卷六

六







古今和歌集卷第十七巻終

雑歌上

歌まじり

よみ人しるし

こがへりてあそびおくおる云の川とほるふゆけいのさぶく

○ワレがウへ、コレをカラあがふアクルワ コレハナニデモ天ノ川ノ渡レ船ノ

カイノオトデアロカイ

思ふぞちあそびあそぶ夜もあそびあそぶききききききききききききききききき

○カウ心ノアフタドウレ 字ヲヨツテ居ル者ハ 三 タツテイヌルノガノコリオホ

イモバテサゴザルヲイ

うれしきをねあつてまじりう夜徒ゆふふふふふふふふふふふふふふふ



○いアウレイノヲ 何ニツミウズ けヤウチ嬉シイ子ガアラウトニツタラ
キルモノ、袖ヲミツツトユツクリトタテト云ウデアツタモノヲ けキツイウレ
シサガ コニチセバイ袖ハ中ミツミレルコトデハナイ

かぎりおきさうがくと先ゆくをさるむの時ととこぬものあざけりりり
○は合ノカギリモナイ君ニは目ニカケウト存ジテ折ニスル花ハ カヤウニイツ
ト云時長ノワカチモナニ 嗟クモノデサゴザリニスイ 君ノは合ガ限リモナイ
ユエニ 花モ時長ノカギリナニイツデモ 嗟デゴザリニス

わづ人のいさくけきいまたのおわいすうちぎとけまり
お秋えこはまたのくつおおわきとのお三宮
おちるるるべし

業の一もやゆきおむさうせむきまひみまぐりつりさうぞんは

○武蔵守ハ一本ノ業ヲアハレニセフニ 是縁デ同レサレ世中ノ善ガ皆
ノコラズアハレニサセハレル

妻ノ妹ヲ 妻ニモツテ居ル人ニ
是のおいさうとけりてけり人おくのきぬをあらうそしよ
こしやうとさる

ひうさの色々きこらきハ先もなるおまねるるおまねるるおまねるる
○捕者が妻ヲ大切ニ存ズレバ 三三 ソノユカリノ人ハ誰デモ皆ヤ 妻同チニ
五 ワケヘカテナレニ大切ニ存ズルワイ

おれそぬらうらうらふつら乃お居事おらり中
物もあうらうらうらおそめぬ人のきぬのあやをあく
あうらうらよるる 近院君のおわいすうちぎと

つろねしとくやふらむひきよりふきんふききえてしものま

○コレハ白ノ綾ナレバ ナニモ色ガナラテ 奥ノナイヤウニ 思ハツヤルデカナコガラウ

吾ハトウカラモ松ヘキツウ涼イザデ濃ウ漆テオイタ綾デゴザルモノヲ

いそねこのねまよめがみやづるもきでしものかき
いよそねふろもりゆきゆふろふかろふりしものハ
まろねまよばようろびいっつろもよそねしもの
しき

日はむりやぶし如くゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

○此上ノねメグミハドコニモモキワラシテ テラド目ノ光ノトヤウチアシテ取デモワテヘカ

テナレニ照レサセ、をリナバ 冬シウ引、終テゴザルハ沙はモナカツタモ松モ

けなカツカウニ作付ラレテ コトニ花ガ咲ミシタライ 二ツ目カをゴザル

二條のまきとれ乃 赤まのみやまむ所とくしきるまき

いおわつしきあまきで終ひるる日よめ

なりのひしきね

大赤やましね山もろくまの神代のももとおひい物うん

○カヤウニ孫ノ者弟氏ノ休息所ノ赤宮ノ伊母儀トシテ伊系諸ノアルナ

ハ け大原野ノ神モ カノ神代ニ天照大神ノ神ハ勅定ノアヒセラレ

タヒタモ 今目ヨソニ出セテは満足ニ言ヒテゴザラウ けあねん

五平ねましねとまよめ よしみのしねまよめ

あつ風をたうひぢらふきこぢらよまをとりはまがこきびし

○アノ天女ノ舞ノスカタガキツク面白イコトシヨリホイニモヲフク風ヨ

アリ天女ガ雲ノ中ヲ色^{トシ}リテ天ヘイスルヲ吹トガテイナレヌヤウニヒテクレイ

ソシテラモウト^ルテオイト^アソツト^ア舞ヲ見ヤウニ

餘村小風ウキ苦^クシニ^ハる相^アふ^バる^シの^ハ洗^スく^ク。

五^ア等^ルハ^カわ^カふ^カむ^カひ^カづ^カ。は^アむ^カ乃^カあ^カら^カし^カり^カを^カ涙^カ見て^カと^カガ

お^スも^スろ^スう^スいて^スよ^ス。河^カ東^カを^カのお^カい^カす^カら^カな^カら^カぜ

ぬ^カや^カゆ^カま^カど^カく^カむ^カも^カね^カく^カお^カま^カへ^カば^カあ^カて^カや^カり^カし^カと^カ思^カは^カす

○ケ玉ノ主^スハナレヤト上^スヘ^ス皆^スワレヤト^スス^スト^スシテ^スタモ^スワレガ^スチヤト^ス云^スモ

ノモノレ誰^レガ^レチヤト^レ云^レモノ^レト^レニ^レソ^レナ^レラ^レヌ^レ舞^レヲ^レバ^レ誰^レト^レ云^レナ^レニ^レお^レ

ヲア^レハ^レイト^レヤト^レ云^レウ^レテ^レヤ^レロ^レカ^レイ 上^レ白^レ又^レ主^レハ^レ誰^レガ^レチヤト^レ云^レト^レ上^レヘ^レイト^レハ^レニ^レ

宛^レあ^レは^レ時^レり^レ人^レの^レさ^レや^レい^レふ^レ物^レ々^レま^レの^レこ^レと^レか^レが^レ
 を^レも^レう^レせ^レて^レき^レま^レの^レま^レは^レぬ^レ方^レお^レを^レみ^レま^レの^レお^レう^レし^レと^レき^レ
 こ^レん^レふ^レし^レそ^レす^レり^レり^レき^レ涙^レ々^レ人^レが^レも^レく^レし^レいて^レめ^レ
 を^レお^レよ^レふ^レも^レて^レい^レて^レさ^レか^レも^レい^レま^レを^レお^レり^レふ^レま^レづ^レく^レい^レ
 の^レろ^レり^レき^レて^レさ^レる^レを^レり^レつ^レく^レつ^レい^レな^レま^レづ^レく^レ人^レの中^レお^レ
 お^レう^レり^レま^レさ^レら^レう^レゆ^レき^レら^レの^レ船^レた^レ

○サキノ小亀ハドコヘイタツ 催^ス樂^ニ玉^ダレノ^レ小^カ擬^ヲ中^ニス^エテ^レ者^求メ^ニコ^ヨ

早^キノ^レ磯^ニト^{アル}ガ^コチ^カ小^亀モ^コヨ^早ノ^レ磯^ノ浪^ヲを^テ沖^ヘか^ガワイ^ハ早^サ

お^レい^レの^レこ^レら^レ法^院告^るし^およ^まい^し。お^レ秋^云あ^るけ^さと^ハは^らむ^を写^し張^るる^お
 お^レと^田中^をま^らう^かつ^るま^まも^ま。

女はえてまゝいひきき よろ きんまのあし

かろつてきみやのがさくら本ねさむを花よりおきばなりのむ

○女中夕チツタニワシラ笑ハレハルガ い 金リ形コソ休山ノオクノ朽本ノヤウナレ

ワシモ花ニセウナラ心ハ花ニモナラウワサ

かろづり人の家ふまう様アにるまきおろしどきまぬ

まきをよりきき波あ〜ふ〜をそてよ〜きき

きききとけり

様のもねよめ衣とらうまききどろろりかぬくもふひぬかあ

○ユベガリヤタけ衣ハ時美ナレウウハガサレケヒ ウツリガ サテモニア濃ウニホヒニ

スルノカナ オタヒニホド感心然々 師村まう〜ササよら〜

か〜らぬ

よみ人〜らぬ

おそいづも月あもまうねわ〜川の心のうち〜もま〜む〜ねわ

○サテモ〜ニアオソウ花月デコサルノカナ コバニシ デモ コチラ チヤウニ待ットホリニアノ

東ナ山ノネラデモ 山入ノヲ入カ皆懐トスエニス ソレ デコチラエエホテコヌデゴサラウ

こが〜ねるまぐさあ〜つ〜しねやまきをそてあて〜月をえて

○今夜けヲバステ山デ月ヲ見レバ サテ ー サヤカナ月デ 見テ 居レバドコトモナ

ウ物ガナレウカチキテ ワレ ハドウモ心ガハラサレヌ けち まきをそて〜いふ心の

なあかり〜ふら〜ね又〜ふもかり〜ね あ いづこあてもはるふて〜あ

の〜ハ〜月見思バら〜おね〜ま〜ま〜いづ〜ま〜ひ〜る〜ま〜

〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

なるにやれぬ

えうこの月減も先でいふ事このはとせば人のおやなるもの

○タイガイナラテモウ月モアリ業致スニイゾ こまぞ コノ月ガ この アノをくトツモ

レバ人ノ年ノヨル年月ノ月ヤ まづ ことこのといふ御を後減ふ

コトガアノ たぐ ギヤといふことあやみのハコトガアノ たぐ カといふことあり

このまかののまじしサカも雅まふかのといふべきこと御あつといへ

係ま〜サすおゆふとのといふことをそそま〜ハ行きよ〜といふ

月おも〜後〜そ〜んは回船怪がま〜でま〜り

〜のゆき 紀法〜ゆき

か〜えま〜い〜と〜つ〜か〜月〜報〜い〜〜〜里も〜い〜じ〜思〜へ〜

○月ハカウレテ居ツ、モニアウト〜レウ也ル、カ コバカリデハナレニ ドコヘモ

カレコヘモ 教ノユカ又里モアル、イトなズレバサ まほ モソニナモノカシラヌ

。み秋え、とりニ白、るほど、つうそくとあ〜るおま〜を、か〜い

此〜月〜は〜る〜海〜よ〜ま〜

ゆ〜ろ〜ま〜れ〜もの〜し〜し〜と〜み〜る〜座〜ふ〜心〜の〜を〜お〜〜い〜づ〜月〜う〜ま〜

○月ハニツハナイ物デ山ノハテナチバかヌモノチヤトユウタニ アレ山ノハテナイアノ地

ノ水ノ底ヘモ出ヌ コレデハニツモアル物トスエル

〜の〜ゆき よみ人〜ゆき

エの川、まの、みを、おし、ま、や、り、れ、バ、む、り、ら、い、ま、む、月、を、な、が、す、

○天川ハ重ノ水ヲチテ激ガイニヨツテ月ノ光ガサニララモ返ラズニオウ流レテユク

あつぎて月ばくくしりせいのちをいひてさうしりかひり

○ニダニタラヌノニ月ノカクレルソノ山ノモトデニ居ルバ 月ノ入ル山ノアキラウ
ス入行テッ 又ニタイワイ

こゝろはみよのかりーきよきよとおまるとしてやどりぬら
へてよむとよほのし物産をーきよお十一日此月もかく
きねせときよきよをりおみと急しりーうちへつとむとふ
くどばよとけりる かりしりの館

あつぎて月ばくくしりせいのちをいひてさうしりかひり

○アノ月ハニダニタラヌニキツウ早クアカレルヲカナ アノ月ノ居ル山ガワキニゲテイ
ンテ月ヲ入テクレバヨイニ カウ云ノ八月ノバカリチヤナイゾ

田村みくぢの侍あふ候院^{デアツタ}あつぎてさうしりかひり
いあやまちあつぎてさうしりかひり 候院をいひてさうしりかひり
さうしりかひりあつぎてさうしりかひり あり候院

大いびてさうしりかひり候院をいひてさうしりかひり
○ニテ照テイク月ガ後イニツテ ナボ雲ガカクレテモトウシテモ 光ハキエハセヌサテ
候ーいび

○^上モトカラノ心ハナボウデモワレラヌモノチヤ
いへへの野中あつぎてさうしりかひり候院をいひてさうしりかひり
○ムカシキワイカクナ候ちヤトテ名ノ高カクツヌ中ノ流水ハ 今ハモウ

ナニヌルウツテアルをモ昔ノヲ知テ居ルハサ 今デモ没テノミニス

いふへのきげのをさすにいやいれもよきもはるるにありおろり

○一ニヨイぬカリデハナイ ぶらかヤウナ賤イ者デモ一夏ハ男ザカリハ多ク物チヤ
今もそのとぬもむりハをともいさうゆく時もまこころのそ

○今ラコソハヤウニキモヨツテピンボフラスレ オレモ昔ハイツカドノ男デ 繁昌
ニクラシタ時節モアツテキタモノヲ ア、クチラレイコヂヤ

世中ニありぬる物チはのむれなぐりのとくくはれとぬりぬる

○ナシデモフルウツテオトロヘタリノタトヘニハ津ノ玉ノ長柄ノ槍ト云チヤガ
世中ニフルウツテヒウタ物ハ 其長柄ノ槍トオレトチヤワイ

とくぬれりぬりつむをれぬをぬも本々もちゆくははりひと

○篠ノ葉へ雪がツツテ 末ガオモサニ本ノ方がカタムイテユクヤウニ オレモハヤウニダ

ニぐキガツテ衰テテカガ 昔男ザカリの時ハニアイツコデアツグイハア、

大わく本はぬるの下葉あひぬるはぬもささきどかす人もなり

○大荒木ノ木林ノまモ キツウタテテカラハ 馬モ喰ヌカラズ 斯ル人モナイガ

人モソニナモノチヤ 年ガヨツテカラハ 誰レモキラウテヨリツカヌワイ

又とららるる何さるるさあの下葉あひぬるは

かぎあきばとぬるぬものをさすといひてはいつくおいじふらぬ

○ヒラタモトニラスニ早ウとテユクキヲア、子ウツタノトニテハるギ云テハるギレテ
ソノ年ノ殺ラカズヘテ見レバ 今年ハモウオレモキツウヨイ年ニサナツタワイ

物ハ口のむれ上りはきそんぬる。飯材ふ上の三句はつむきそよと

○鏡山ト云山ナラ 人ノ親ガヨウウツルデアラウホドニ 久シウツタケ身ハ
年ガヨツタカト ^五 ドレヤタチヨツテ足テユカウツ

此ちのあゝ人のいゝくちとせはるはぬーがし

おりむくろねたはるのみとせもふまゝに結る時おをりひ
らまづ久きまて時いもえさかりさういざ結るはまをまづ
^{ビデニ} くらふらけみこのもせよるも ^{キフナ用} けみのもまゝにみまをてゆ
じまうらひきてえまばあづけおきてまらうー

おらぬもばううぬまうさもらうといへをいひく足まくわーに君成

○世中ノナラビデ 世トモノガレヌ別レモルト云ナレバ 年ヨツテハ 結ニ明日モシ
レトバ イヨク君ニドウツタタイカナ 上ヨニニ一と流カしてんぬべー

かをー

おりむくろねた

世中にさうぬあまをけあくもがねちももと結く人のふれとめ

○親ノ壽命ヲア、^{なま}ドウゾ千年モト程フ子ノタメニ 世中ニハドウゾ ^が 結レヌ

別ト云フナイヤウニシタイカナ

。おねえ人の子にまゝ親おむとく。おの子とつておん
人のおとつておん親し。おのちの別し。

寛おね時きまのあはさ合のち けうとくはむひやあ

ふ君のハきゆりーもさるかつらうさうもおいあまのあねー

○オレガ頭ハア 雪ノイクヘモくツモツタヤウニツ白ニナツテカヘスぐモ
キツイ年ノヨリヤウカナ

おまゝの時へへのまかひうてをのこごとおあわこ
きほひさー ^は おあみ ^後 あま ^強 び看き。ほつてふつらう

とて

そゆきの物

おいぬとそむどろぬやげせをき¹⁸びおつど¹⁹は²⁰あつ²¹ま²²物²³の

○²⁴身²⁵ヲ²⁶年²⁷ガ²⁸ヨ²⁹ツ³⁰タ³¹ト³²云³³テ³⁴ナ³⁵セ³⁶ニ³⁷ソ³⁸ク³⁹ニ⁴⁰思⁴¹ウ⁴²タ⁴³ツ⁴⁴ 今日⁴⁵也⁴⁶ア⁴⁷見⁴⁸レ⁴⁹バ⁵⁰ 年⁵¹ノ⁵²ヨ⁵³ツ⁵⁴ハ⁵⁵レ⁵⁶イ⁵⁷フ⁵⁸ヂ⁵⁹ヤ⁶⁰ カ⁶¹ウ⁶²年⁶³ノ⁶⁴ヨ⁶⁵ル⁶⁶マ⁶⁷テ⁶⁸生⁶⁹テ⁷⁰居⁷¹ズ⁷²バ⁷³ 今日⁷⁴ノ⁷⁵ヤ⁷⁶ウ⁷⁷ナ⁷⁸ア⁷⁹リ⁸⁰ガ⁸¹タイ⁸²ニ⁸³ニ⁸⁴ア⁸⁵ハ⁸⁶ウ⁸⁷モ⁸⁸ノ⁸⁹カ⁹⁰イ⁹¹ 年⁹²ガ⁹³ヨ⁹⁴ツ⁹⁵テ⁹⁶生⁹⁷テ⁹⁸非⁹⁹レ¹⁰⁰バ¹⁰¹コ¹⁰²ソ¹⁰³ せ¹⁰⁴を¹⁰⁵き¹⁰⁶の¹⁰⁷説¹⁰⁸ 破¹⁰⁹巨¹¹⁰と¹¹¹ら¹¹²し¹¹³。

おとど

よみ人

ちりや¹¹⁴あ¹¹⁵う¹¹⁶の¹¹⁷ら¹¹⁸ち¹¹⁹ぬ¹²⁰げ¹²¹を¹²²つ¹²³ど¹²⁴つ¹²⁵と¹²⁶ら¹²⁷あ¹²⁸年¹²⁹の¹³⁰へ¹³¹ぬ¹³²こ¹³³バ¹³⁴

○¹³⁵一¹³⁶ 宇¹³⁷治¹³⁸ノ¹³⁹橋¹⁴⁰守¹⁴¹ヨ¹⁴² ホ¹⁴³カ¹⁴⁴ノ¹⁴⁵人¹⁴⁶ヨ¹⁴⁷リ¹⁴⁸ハ¹⁴⁹も¹⁵⁰カ¹⁵¹ヲ¹⁵²サ¹⁵³オ¹⁵⁴レ¹⁵⁵ハ¹⁵⁶フ¹⁵⁷ビ¹⁵⁸ニ¹⁵⁹思¹⁶⁰フ¹⁶¹ オ¹⁶²レ¹⁶³ト¹⁶⁴同¹⁶⁵シ¹⁶⁶ヤ¹⁶⁷ウ¹⁶⁸ニ¹⁶⁹年¹⁷⁰ヘ¹⁷¹タ¹⁷²老¹⁷³人¹⁷⁴ヂ¹⁷⁵ヤ¹⁷⁶ト¹⁷⁷思¹⁷⁸ヘ¹⁷⁹バ¹⁸⁰サ¹⁸¹

ぬえてと久しうなりぬ位のぬれ者のぬれつくよへぬとむ

○¹⁸²は¹⁸³住¹⁸⁴ノ¹⁸⁵江¹⁸⁶ノ¹⁸⁷岸¹⁸⁸ナ¹⁸⁹松¹⁹⁰ド¹⁹¹モ¹⁹²ハ¹⁹³ オ¹⁹⁴ガ¹⁹⁵見¹⁹⁶キ¹⁹⁷タ¹⁹⁸ツ¹⁹⁹テ²⁰⁰モ²⁰¹ウ²⁰²ス²⁰³レ²⁰⁴ウ²⁰⁵ナル²⁰⁶ガ²⁰⁷ ソ²⁰⁸レ²⁰⁹ヨ²¹⁰リ²¹¹ニ²¹²ヘ²¹³

始²¹⁴メ²¹⁵カ²¹⁶ラ²¹⁷ハ²¹⁸ イ²¹⁹カ²²⁰ホ²²¹ド²²²年²²³ヲ²²⁴終²²⁵タ²²⁶フ²²⁷ヤ²²⁸ラ²²⁹ サ²³⁰ダ²³¹メ²³²テ²³³キ²³⁴ツ²³⁵ウ²³⁶ス²³⁷レ²³⁸イ²³⁹フ²⁴⁰テ²⁴¹ア²⁴²ラ²⁴³ウ²⁴⁴

住²⁴⁵を²⁴⁶け²⁴⁷き²⁴⁸し²⁴⁹乃²⁵⁰ひ²⁵¹え²⁵²ね²⁵³人²⁵⁴あ²⁵⁵ら²⁵⁶ば²⁵⁷い²⁵⁸く²⁵⁹よ²⁶⁰う²⁶¹終²⁶²し²⁶³し²⁶⁴ら²⁶⁵い²⁶⁶ま²⁶⁷し²⁶⁸物²⁶⁹を²⁷⁰

○²⁷¹住²⁷²吉²⁷³ノ²⁷⁴岸²⁷⁵ノ²⁷⁶娘²⁷⁷松²⁷⁸ガ²⁷⁹人²⁸⁰間²⁸¹ナ²⁸²ラ²⁸³ イ²⁸⁴カ²⁸⁵ホ²⁸⁶ド²⁸⁷年²⁸⁸ヲ²⁸⁹終²⁹⁰タ²⁹¹シ²⁹²ト²⁹³同²⁹⁴テ²⁹⁵思²⁹⁶ヤ²⁹⁷ウ²⁹⁸ニ²⁹⁹

伴³⁰⁰ヲ³⁰¹い³⁰²そ³⁰³べ³⁰⁴の³⁰⁵小³⁰⁶松³⁰⁷し³⁰⁸ゆ³⁰⁹ガ³¹⁰母³¹¹ト³¹²い³¹³ふ³¹⁴代³¹⁵ラ³¹⁶う³¹⁷て³¹⁸し³¹⁹も³²⁰げ³²¹す³²²れ³²³を³²⁴む³²⁵

○³²⁶一³²⁷ 此³²⁸磯³²⁹ベ³³⁰ノ³³¹松³³²ハ³³³最³³⁴初³³⁵ニ³³⁶タ³³⁷子³³⁸ヲ³³⁹マ³⁴⁰ク³⁴¹時³⁴²ニ³⁴³定³⁴⁴メ³⁴⁵テ³⁴⁶コ³⁴⁷レ³⁴⁸カ³⁴⁹ラ³⁵⁰後³⁵¹万³⁵²年³⁵³モ³⁵⁴オ³⁵⁵ヒ³⁵⁶シ³⁵⁷テ³⁵⁸

レ³⁵⁹ト³⁶⁰思³⁶¹ウ³⁶²テ³⁶³時³⁶⁴テ³⁶⁵オ³⁶⁶イ³⁶⁷タ³⁶⁸テ³⁶⁹ア³⁷⁰ラ³⁷¹ウ³⁷²ガ³⁷³ソ³⁷⁴ハ³⁷⁵昔³⁷⁶イ³⁷⁷ツ³⁷⁸ノ³⁷⁹代³⁸⁰ニ³⁸¹誰³⁸²ガ³⁸³ミ³⁸⁴イ³⁸⁵タ³⁸⁶フ³⁸⁷ヤ³⁸⁸ラ³⁸⁹

け³⁹⁰小³⁹¹松³⁹²ハ³⁹³い³⁹⁴ち³⁹⁵ひ³⁹⁶を³⁹⁷つ³⁹⁸ま³⁹⁹つ⁴⁰⁰つ⁴⁰¹び⁴⁰²を⁴⁰³い⁴⁰⁴ふ⁴⁰⁵馬⁴⁰⁶を⁴⁰⁷駒⁴⁰⁸と⁴⁰⁹い⁴¹⁰ひ⁴¹¹猪⁴¹²を⁴¹³
ぬ⁴¹⁴の⁴¹⁵こ⁴¹⁶鹿⁴¹⁷を⁴¹⁸兼⁴¹⁹ふ⁴²⁰とい⁴²¹つ⁴²²保⁴²³じ⁴²⁴ら⁴²⁵ぬ⁴²⁶の⁴²⁷例⁴²⁸を⁴²⁹あ⁴³⁰ら⁴³¹書⁴³²ふ⁴³³也⁴³⁴。

け⁴³⁵ち⁴³⁶ハ⁴³⁷あ⁴³⁸ら⁴³⁹人⁴⁴⁰の⁴⁴¹い⁴⁴²そ⁴⁴³く⁴⁴⁴梯⁴⁴⁵中⁴⁴⁶人⁴⁴⁷ナ⁴⁴⁸ら⁴⁴⁹が⁴⁵⁰し⁴⁵¹

なふはぐのきりみちらしし何の夜もこの鳴あしづるを

○ハアホガミチクルサウナ 難波ノ三冬ノ嶋ニ鶴ガトビサワイデ鳴

鳴るがづもけふりけり時あやるといふことえやうて

まじよみそつうきき 養家くわぬき

あを思ひおきつの傍りぬくし川のぬみくまじよとてふき

○拵者ハもろ極ヲ思フテ志レズニけまて三子テ集ツタレバコソ 五

ト云フナリトモツタレ ち極ノ方カラトテハ一向はる子モトセヌ サテくキ

ツイオミカギリデゴザル

かへし けしゆ紀

おき川伝しゆくもなるぬ松の名あてき君波まらばとつこ

○一アノ言傳演ノ松ノ松ト云名をリニサ拵者ハトウカラモ極ヲ待ヤタライ

わふもおまうけりきき時よあつ

難波ぐにある玉藤をかりそめわあるそぞいぬわぬづるなる

○難波カタノ風景サテく面白サニ 六バクはまニ返留ニテ 高か玉藤

ヲ薙ル海士ニサオレハナラウヤウニ思ハレル

つひまじりなる人の住をりけりてはるあまき

はくつとまき みあのかげと藤

住者くつるつづるもねがぬをる人まじりけりあふくつるなり

○住吉ハガツチモシツ海士住ヨイ取テゴザルト云キカス氏 必長居ハレサツヤルナ

ヤ住吉ハ在死ノ人ヲ忘ルト云ワスモガエテアルト云フチヤホトニ

○京ニテハエテ名ノトホツタルを琴ト云取ヲ持テ見レバ 風ガフチバ浪ガ立テ音
ガスル スレヤケカラ琴ヲハ 浪ノ来ラスゲテ風ガサ深ノチヤワイ

布巾のよにまてらめる 左系行お知長

るきちりほしきほふまひろひもそそほうに時乃海まきかから

○此勝ヲ見レバ水ノトテ走ルソガテウドモヲ緒カラコキチラスヤウチガ 以テヲ

ヒロウテオエテ借リミス ソレテワレガ身ウズカウニウイ此等ノ儀ニセウトなる

布がまきほ勝のちをほいてくくつちりてあよみき

おあふよせら おりひくの終た

ぬきみぐるくくまけくしふまほまねくとちりう被のまをほにお

○け^五アセイ袖ヘツレモセヌホド 玉ガアヒナニニゲウニウチテスレクナ

コレナニテモ ツチイデアアル玉ヲ 誰ゾ緒ヲトイテバラクニニテ け勝ノ上ノカカ
ラチラス人ガサアルサウチ

よりの勝を見てあゝ 兼均は師

くまぐくめおけてはくきき布好きやう海へくくはくをる人もあき

○アノヒツハツテサラヒテアル布ハ 誰ガキモノニ元布ヂヤカ ツトニカカカラ

ニルガイツエテモソノミデアツテ トリイルル人モオイ

勝をまねち布やしてよきよきし決まるニそくも何ド。

観一らむと 神志は師

勝勝好きなのこつあくりとめてんかぶらもあてきあし海

○け勝勝川ノ瀬ニタツ浪ハト下白イ糸チヤ け糸ヲツテタニトタテ 山ヲア

モ同シヤウニアルアリ白ト是テハ昔カラモル勝ノムデサゴザルワイ

田村の伊時より女をうけさかしくひめては候風の志は
らむじきりに勝おちりりるる海おちりりこれ
を歌うてうよ先とさかぬ人うおちせうとを
とばよめ

三條の町

思ひきくん乃うちれくまきおとやあつとハそれと喜ばゆめ

○人ノ思ヒヲヨミテ隠シテ智リニ是心ノ内ハ勝ヤ立ワキカリニ是物デゴザリニ是ガ
繪ノ勝ハサウ心ノ内ノ勝チヤカ致ニシテ是トハ是ニエド子カラ音カキセ
候風の候る花をよめ つらゆき

嘆き先一時より後をうちあへて昔の喜ばゆめやもれつらぬ

○嘆ソメタ時カラレテハウチツビイテ昔ノ中ハイツモ春チヤカレテ此花ハ

色がジャウヂウオンナレトヂヤ

候風は急りよりを合とてかきこき

返上ころもの

かきてほと山田乃ソ糸のこねとておきアそほき秋のうきとハ

○オレハ秋カツライヨツテ 一ニ けヤウニヒタくと候テ候とテ近テクラスワイ

かりてお雁をこえて下々の候とをり

古今和歌集卷第十八巻終

雜歌下

歌三三三

よみ人ーらど

世中ハなふうつ子ねも何き川きあふ川濁どりふちぬおる

○世中デハ何ガもカハラ又物チヤゾア飛も川ヲ見レバ昨日デ濁デアツ又取

ガサ 今自モウ浅イ瀬ニル川サウチヤ スヤナデモカラ又物ト云ハナイ

いくよりと何じい家おぬるもかしくつるけくるとお思ひみづ〜

○モウ生テ居ルアヒガモ何ホドモアルイ此身ヲ 悔士ノ川ル藻ノ乱レタヤ

ウニナゼニオレハニア此ヤウニトウカウトイロクニ苦勞ニモウゴゾ モウワツ

カふるナレヤ ドウデモカウデモヨイフチヤニ

居けくる者のお方をいれどのおむひつきせぬよの弁けうさ

○一二 心ノ心ル時モナレニ常住モゴトノツキルト云フモナイ け世中ノツラサウソノ

小蛇、とくむくのねた

さうとさしてさむく横ちうに事しあとおまづ歎くもぬあふよの中

○サウチヤト云テノガレラモセ又中チヤニ ナゾト云トニツア、ウイ中

ヤト云テナゲカル、

かひのうゑにけう。それ糸へありののちをきる人う

はく〜き。

その〜らど

糸へありののがことうとぬ。サオふ。ほじといひく。ま〜のが
こと改めら〜る。はく〜らひさる。ことねさどと。オ〜お例ふとが。り。

ゆきのまみら

こふくむきてもいへとの中へは乃るまじいお風ぞしくはる

○コレ世間ノ底 知テ居え、デモアラウガ モレ知ラヤラスバ 今ワレガ云テキカス

ヲツテナリト 此世ヲ早ウステサツトヤレ テド風が吹テ浪ノサワガレウレ

キリニウチヨセテクル荒イ侮ベノヤウナ世中デ ア、ドウモ是付又ア、ドノナ

ラヌヤウスヂヤゾヤ 。み秋云、下の風吹て、浪ぞまきまきうめふ、といふことなることいひがときふ、いと伝とを、おて、い、なり。

そせい

つづくふの世をいといふせん、そせむおも山おもまごおん、まれ

○世ヲステ、ドコニサ 住ウヅ 夕トヒ野ニスガリト山ニスガリト ヤツハリ心ハサ

ニヨウテアラウトヨハル、ワイ

よみ人ーら

そ、中ハむう、うりやハ、のりう、む、お身む、の、とめお、ま、る、の

○ヨノ中ハ昔カラけむリニウイ世中デアツタカ 但シ又オレガ身ヒトリノタメ

ニトヤウニウイ世中ニナツタノカ 。み秋云、ニのウヤを、い、の、ま、う、り。

よの、お、げ、い、ち、お、ふ、べ、の、ま、お、ま、や、ち、ま、く、お、ま、乃、色、お、お、つ、む

○せをノ人が アナウヤト云テ世中ヲイトウテ事テ住山ノ草木チヤトテヤラ

ウイト云名ノ郊花がけ山へ、五

み、う、お、お、ふ、乃、ち、ま、く、お、ま、ど、も、お、お、よ、の、く、れ、時、の、か、ら、ま、ご、お、ま、ま、

○吉野山ハズイブシ深イ山チヤガ オレガノゾミニハ 二ダソノ吉野山ノアチチニ

家がホレイモノチヤ 世ノ中ノウイ時ノヒツコミドコロニセウニ

よふゆきとびうささきまきみくしの雪のかけさきとちりしてむ

○世間ニカウシテ居バ 次オニウイツライヲバカリニシテクルニ 一日モ早ウ吉

せノ難^{ナシ}系^{コト}ナ山ノオクヘヒツコモラウヅヤレクイヤナ世^ニ中^ニヤ

いづれもむしをわが中ゆをむはようれもれききるるるむ

○ドヤラナ依イ山ノ中ニスダナラ け世^ノウイ^テガキコエテコヌデアラウヅ

とて各うおいふ中といふは皆いふ思のこちめぐわすおのう

あし保き心の申^ハいふし^ハまゝ思^ハ密^ノ肉^ヲをいふをいふ

あゝひきれ心乃まふくからとをむしき世中ハあるかひもたう

○山ノオクヘドコ^ニテナリ^ニカクレウヅ けヤラウイ^テ中^ニ住^テ居^ルセシモナイ

よの中れうきくふあきぬおくらこのまふおるゆきやきをまはし

○世^ノ中^ノウイ^テニアキハテヌ モウトコ^ニテナリ^ニ 四^ノユキ^ノニ^ハ奥^ノ山^ヘカクレウ^カシ^キラヌ

おまじゆぐおきさ おのべのよお

それうき免^レぬ心ぬへしむふあ人々をほごおわらさ

○世^ノ中^ノウイ^テヲ^シモ^セ山^中ヘ^ハイツ^テ住^ウト^スフ^ニハ ドウ^モ見^ヌテ^ラシ

又人がアツテソレサツナガレウイ

心乃あゝ一れもへはうりき

九の四躬恒

よ波をてふりうく人ふうてもおやうれまきいつちゆらむ

○所^コ坊^コ孫^モ山^ニオ^スミ^ヒチ^ヤガ^ソウ^{タイ} 世^ガウ^イト^ステ^ステ^ニウ^テ山^ヘハ^イツ

夕人が山ニスデモソレデモダヤハリウイ時ニハ ドチヘイク^フチヤ^リニ^セヌ

いさうの中においしくも里好むばかりのほどおぼすべし

○此里八月ノ中ニハテアルトヤシニスル桂ノ里デガリニスル ヒタスラアオヌ様ノ

光リヲササキニハ致シセウト好ジニスルワタシハ 后ニハ月ふくとへなることし

まのりーとどがらもれまけふまかりくもあふくのいさ

むまをむとて 今日はお下サレト しいからりきもあふかーこふ

まのりありきてあふらまてそいぶりう終つたりう

わりのむくは終に

今どきとくーたもの人すもむ里をばうとびさだかりたり

○人ヲミツルハナニギナ物チヤトムコヲ 今日サ始メテ知リシメ コレハバソウスイ人ヲ

待テ居ル取ハ ウツ ブサヌヲセズニ早ウイテヤルベキコトデガルワイノ

こころうれみこ乃もやふまかりくしり 秋王 城 ウツ かりあ

ろーてふせとつあささうお侍 オウ 月ふさ ウツ かりあ

そてあうり ウツ ささるふ ウツ えれ ウツ 乃 ウツ ね ウツ と ウツ かり ウツ かり ウツ かり

いふう ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり

み ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり

きてよとてあかり ウツ かり

かき ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり ウツ かり

○依イ雪ヲフミワチテ トホイ山里へ ウツ 君ニ ウツ 伊目ニ ウツ カリニ ウツ セウトハ ウツ 好ジニ

シタカイ ウツ 好ジモヨリニ ウツ セナシ ウツ ガ ウツ テ ウツ ガ ウツ リ ウツ ニ ウツ ス ウツ ソ ウツ ナ ウツ ハ ウツ 好 ウツ リ ウツ ナ ウツ サ ウツ テ ウツ ヲ ウツ フ ウツ ト ウツ フ ウツ ス

テハ ウツ コ ウツ レ ウツ ハ ウツ ニ ウツ ア ウツ 好 ウツ テ ウツ ハ ウツ ナ ウツ カ ウツ ツ ウツ タ ウツ カ ウツ ト ウツ サ ウツ 好 ウツ ジ ウツ ニ ウツ ス

係ある里よりをとりて来へまうでくとてをとり
る人よよみりかるとき

年減へてをとり置をいづりあはしむ係を坐るやかりなる
○年久しう住キナツタは里ヲデ、イダナラ、タサへはるる里ヲニイヨク
アテ草ノフカイ野ノニナルデカナゴザラウ

かゝるゝゝ
よと人ゝらば

せとねくぶらうと唱て年ハへせをとりふらふやのさうとせしむ
○サイナア此里が野ニナツタナラ、ワレハ鶴ト曰レヤウニ泣テ月ヨクステスデガ
ラウニ、モウコレカラオハセメテオツトモハ出ササレイハレウケカエ、ソヤアシ
ミリテゴザリミスジエ、かりあをぶらうとせしむ、ふとつらふよせしむ。

かゝるゝらむ

あをとりたのふをい、うふまゝゝらぶらうにめばらう乃、けりふき
○オハカワシレナニデモナイモノニナサツテ、ウイメニアフタユニ、ソデワタレハ
波ノニ津ちへ素ッテ尼ニナリニシタ、維は浦、三津、海布、海士、ふてふそら
けあらわの人むゝゝをとりをとりおのまゝとて
をとりあらむ、維はのゝ乃、ふまかりてあらふな
アそよみりをとりつらふとせしむ

あへゝ

たふそがさうむびまもおもわむとせしむ乃、海士とつらなる
○ワレソヤウニソナニ恨ミラレ、ヤウチナニモモエハナイニ、何ヲアソクニ思

○を後六

〇七七

ワレが心ハ ^上身ヲ捨テオイトヨヘイニテヒウテ ^ヤ心ト身トガ別々ニナツカシラセヌ
 飯材よろしサズあり。トウハハふあふよりかぬ。おハ、身をりき
 こといふことぬるとさつひがくればふんまりたりといひつじ。

むゆをうけおふりかあけつゆりやうでまきりりる
 時ふきれよりきへんておのが思ひをこのきれごとく
 けむほしむとさつひるをりあふる。

天か思ひ君とほゆりばれまきれまきり後ハつじとありへを
 ○ま松ノ思ヒガ君ノヤウツモツタナラ ^{ソレ}ヤドウモれニナリセヌナゼトヤスニ
 ソナラ春カラハモウサウハアルイトぬズバサ 君ハ妻ニテバニナ消ニスゾヤ
 かへー
 家出大粒

きんぎょの思ひごとくはるるゆきりりる雪乃きゆるといへる。

○イヤクサウデハゴザラヌ 雪松ノ子バツカリオウテワレが持タ北風海乃ノ白
 山ハイツサ君ノ消ル時ガゴザルゾイ ^ハマア及ビデモアラウガ白山ノ君ハ春デ
 モイツデモキエハ残サヌ ワレガモソトホリデゴザルゾヤ
 うぬりりるふつりりる きりつりゆれ

おなじやゆきりりるふつりりるゆきも一よも雪スノこえぬ雪をゆき
 ○君ノコトヲ思フテ君ノ心ハ北風ヘヒニス ^{ソレ}デ白山ト云取モトニナ取カシラ
 子也 毎夜心ガカヨフニヨツテ ^ハ白山ヲ君ニユエ又夜ハ一夜モゴザラヌ

ねとらげ とうとくーらば
 いざうふあそびへるを菱系やゆきりりる雪乃わきすくもほし

○モウシウチヲキハチワカ一^レ生ハ^レ伏見ノ里ニ住^ルテウツオレガモレヨソへ移^ルテ
 イニガナラバ 此家が^レア^レテミウデア^レワ^レシハアイカニテモ^レお^レま^レナ^レト^レヤニ

ミカ^レソ^レハ^レミ^レ山^ノ中^ニあ^リく^レハ^レソ^レカ^レハ^レヒ^キマ^セセ^レ移^ルル^レカ^レミ^レカ^レミ^レ

○ワカ内ハ三^ノ勝^ノ山^ノ麓^ニヤ^リま^レス^レバ^レる^レテ^レハ^レ出^ルカ^レレ^レ移^ル立^テア^レル^レ門^ノカ^レシ^レガ^レサ^ニス

ませんは解

和^ガ唐^ハみ^ヤと^レは^レし^レち^レと^レも^レど^レも^レむ^レと^レ成^ルじ^レと^レ人^ノち^レり^レと^レも^レ

○ワカ名^ノ室^ハ京カラ辰^ノ方^ニま^レカラ^レ又^レ宇治山^ト云^ル也^ナヤ^リ外^ノ久^ハけ^レ山^ニ

住^テニ^テモ^レ京^ガ近^イユ^エヤ^リリ^レ世^ノア^リテ^レガ^レア^レト^レモ^スニ^シ又^レ山^チヤ^ト云

ヤ^ガ拙^信ハ^レコ^レけ^レリ^ニサ^キス^レシ^レ住^テ居^ル

餘^カ化^人も^レ心^ノ名^ヲじ^レぢ^レいと^レわ^づきて^レと^レつ^レと^レつ^レア^リサ^レヌ^レも

と^レつ^レ。ま^レて^レ熟^ノも^レと^レし^レと^レい^フハ^レ京^ヲま^レわ^レぬ^レや^レい^フ酒^ヲも^レ昔^ノ
 と^レり^レと^レら^レを^レぬ^レる^レ人^ノち^レま^レふ^レ此^ノ信^ノと^レつ^レふ^レり^レ又^レ四^ノの^レち^レも^レと^レつ^レ
 ち^レま^レふ^レと^レつ^レは^レの^レち^レま^レち^レな^レり^レ。お^レの^レち^レま^レの^レち^レも^レつ^レは^レあ^レる^レし^レ
 つ^レち^レま^レふ^レし^レつ^レち^レも^レと^レつ^レし^レ。
。お秋^ノ云^フ譯^ハか^ドウ^モス^レ又^トつ^レ酒^ノ。
 ち^レま^レち^レと^レつ^レ酒^ノの^レ勢^ハい^ハち^レな^レり。

よ^レん^レ一^レら^レじ

あ^レま^レふ^レら^レの^レち^レも^レと^レつ^レし^レく^レよ^レは^レお^レど^レや^レ住^キむ^レ人^ノの^レち^レも^レと^レつ^レし^レも^レを^レぬ^レ

○此^ノ家^ハア^レル^レキ^ツウ^アレ^ヌヤ^リは^レヤ^ウニ^シテ^レ何^レ年^ニア^ル家^ナレ^バ昔^ノ住^ミガ^レ人^ノ

ノ^レ音^ツモ^セヌ^トゾ^ノサ^ガメ^テ住^ミガ^レ人^ハア^ルデ^アラ^ウニ

ち^レり^レ入^レま^レち^レり^レる^レお^レの^レち^レも^レと^レつ^レし^レる^レお^レの^レち^レも^レと^レつ^レし^レる^レま^レき^レ
 て^レよ^レん^レし^レつ^レち^レも^レと^レつ^レし^レる^レよ^レん^レの^レち^レも^レと^レつ^レし^レる^レ

るび人乃まむべきをどくするあべお款きくらを承りておきぞとる
○け家ハナシラナノ住ヤウナ家ヤカト尼ハソシツテ又ク款キソフ琴ヲ考ガサスル
まけきふまうづるまにありて系おやどわりりるるに
よきる
二條

人あるは里をいつひくこくかどもねくはみやこもうに名ありりる

○系ハ人ノワシラフルイ物ニシテ名ステタ取チヤニヨツテイヤニモフテ出テキタレハ
け奈良ノ都モフサト、云ナレバ同ジクフルイ物ニモハレルツライ名チヤライ

顔ちくく文
よも人ちくく文

ら此中ハつづきりありてこぐねく電ゆきまふまをぞやどく定むる

○モノゴト定メナイけ世中デハイヅクドノ家ガコレト云テ定ニツタワガ中状テ

アラワツ定ニツタフハナイドコテアラガイキトツタ取ヲサオレハ家チヤトシテ居ル
建坂乃つづきりありて風ハまきけまどゆくへちち保バるびつづきぬる家

○け相坂山ハキツウ嵐ガテテ夜ハ寒イケレ取ヲカヘテドコヘイタト云テモサキ
ガ又ドウヤウアラウヤラレバナギナガモニバウレテコニサカウレテ寐スル

風のうろくつづきりありてまぬちりておのゆへもまらびありぬべらん
○ドコト云フナレニ風ニキアガレテアルク塵ノヤチ何ニモナイけ身ハテドソソ

塵ノヤウニユサキハドコヘドウツテユカウヤラレシヌヤウニ思ハレル
家次らうそよきる
伊勢

おき川あちあもつづきぬこがやともせふらりゆく物あがらるる

○アスカ川ノ樹コソ崩ニカハル物チヤト及ニテ居レソノ飛き川ノ樹デモ

オノワレが家モ 不仕合ナ時第ニナレバ 瀬ニカハツテユク物ヂヤワイ 瀬ニト
云ノハ ソレアノオアレノサガテニカエ

つらふ竹う時ふまわりをひつごうちきる人のせふ糸に
くちまきでまききりう まの友のり

あふらえーごもつらふをのえぬらうーあぞあーかうら

○京ハ ^{コキヤク} ながラ久シブリゲモドツテニスレバ けらモキツウモヤウガカハツテ

先年ノヤウモナウテ さら取へ糸ツマヤウニゴザル ソレエも括ト毎夜其若ラ

ウツテ けらモワシテ面白ウラタタ 糸條ガサ 糸シウゴザルワイナ

女ととぶらと物ごうりしてこのきて後ふつうーうか

みらのく

あふらえー種ノ中ふや入ふまむごうぬーひのかきくうらとる

○ワレガタミレヒハ オノコリオホウ存ジテ別レニレオハノ袖ノ中ヘハイツテ

アナタニトツテアルカねジセヌ サウカシテ アタタカラぬリニシテカラ トツト

ワレハオハノツガカリマフテウカクト後シテ タミレヒガコニハナイヤウナコロモチ

デゴザリニス

定お清時うーもほこー時 ^判 ^官 ^任 ころんふえされてけり

うの時ふ糸まのまがうひるてまのまをけーとんづつ

いてふよとけりる ぬぢらうけーもふあさ

なよけねよちにーへふゆあ乃おきわてものげあひあうら

○け ^五 ^ア ^ウ 夜ハ長シ 竹ノウハヤ初霜モオイテ寒イニ 寐 ^ひ モせずニオキテ

○を洗六

○五二

居テ遠イ別ノ物思ヒラスルヲカナ

け遣唐使ハ扶桑畧記

小寛平六年八月廿日おも詔きしすんし。なのおもるるべし。

歌しらす

よみびとくちうむ

風ゆきばおまのほしと山よもふや君がむらりこゆむ

○一二

アノ立田山ヲ夜が子チカラ君がタツタオヒトリコエテは生チサレデアラ

ウカサテモトビニエトカチ

立田山のす。チツオ或人のまきへる流

よあし。但し立田川ハおの色別ふ考へき。

千枝ふけ立田川の師の考へき。まの一のまし又二のをふおぬり。

あし人けまむり。大和おぬり人のむらふわし人。まき
まきき。けおやまなくぬりて。ぬもまきくぬりゆわ
いどけ男のちねお人をうひまて。のよひつ。かきやうふ

大和ノ女ハ

のまぬりゆきりし。あしぬれぬもほくげき。まきと
そでわちへい。く。お男はん乃ぶく。に。つ。つ。ど
や。さ。た。た。あ。や。と。思。ひ。て。も。お。ま。ま。ふ。お。と。ん。ま。や
あ。と。と。と。と。と。と。月のおま。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。あ。ち。へ。い。く
ま。お。ふ。て。せ。ん。ま。ん。乃。中。ふ。う。と。て。え。ん。ま。ま。あ。ら。る
ま。で。琴。波。う。ね。あ。し。つ。う。ち。款。き。て。此。ち。を。よ。み。く
祢。ろ。ろ。れ。を。こ。と。波。き。て。ま。と。ら。り。又。お。う。へ。ま。ま。か
ら。び。あ。り。ふ。ら。と。と。な。む。む。い。つ。と。と。

ふがみまねゆあほまざりわの衣しゆとけ山ふそりえへてぬく

○三

け立田山ニ 誰 襖ヲシテ分テオイタをちヤカ サキカラヒキツ

○巻六

○三三

ツイテ久シウ鳴ッ

本條付書の流給材を好し。

こころう澄けしめしのべとどをぬふもゆるいもあぬ跡をどどむは

○人ハドウナラウヤラ 三 ユクサキノシレヌモノナレバ 後ニモシ人ニ忘レラレヌ時ニ

コレヲニテヒガセトセウテサ イッヂアンニ けそリニ物ヲカイテ手跡ヲノコレテオキニス

名教、清時系紫集ハソノ イッヂアンニ をかりつらするぞとくせはひ

うとばよみてなかりり。 ぬんやのあをととあ

かえり月時ぬありかふるなるはその名おあふまはふふをこつ続

○上 五 コレハ 奈良良ノ宮ノ旧時代ノ古イ書デゴガリニス 又ハ奈良ノ宮ノ

伊時代ニ古書ヲ集メテトラス 五 集ガサ イッヂアンニ ける葉集デゴガリニス

なるの葉は名おあふとハ楯の葉は名おつきてあふとふふとふふとふふと

とあふち奈良とつあふと。ぬあふありあるとハあづし。

定まぬ時奇とてまつときついでかなりり。

あひあ里

あふとづ乃むりからとてぬくあひあはくへもてすしけがけり

○世君ノ人々ハミナ立身救スニ 一 一人オクテ立身モ救サズ歎イテヲリマ

スヲバ 誰モ申上テ下サルハオトカヤ イッヂアンニ ドかひ板子ヲ上へル傳テ下サレカシ

ぬららつらぬららあひ

人とどげおひあふとあふはくしあふとてあがあふもあふむ

○人ニハイハズニ我カ イッヂアンニ 事ノアルハ心ハ イッヂアンニ ドウク春ノ庭ノヤウニタチ出テ

上ノ湯目ニモアエヨカシ イッヂアンニ ソシタラけ我カ イッヂアンニ ノ叶ウモアラウニ

おまへがと	<small>ボニアノ身ヲバ</small> えおれ弟をれバ	かちやふげ	おまへハふり
何一引乃	ふあささる乃	こがらとて	<small>ムカシノ川ハ</small> と
ふみぞめも	あひささくつぎ	もふいでバ	<small>ムカシノ川ハ</small> と
なぶきつゆり	<small>セシカタナサニ</small> きしはさへきふ	をりおて	<small>アハレアハレト</small> わちおしつくと
とろふへ乃	衣乃そでり	かくあろ乃	きねをきねべく
ありつども	程きげさぬ	まがらみ	よきふま入り
つらもせへむ			

ゆきうこをりし時のもくろくはるのながさ

ほくゆき

ちやがや	秋のは代り	くさけの	よふもくしと
あさきの	き相乃やまの	まがらみ	あひみぞしと
ささづれの	きつもさるふ	まよゆけて	ふらとくきと
ねくごふ	しやとねさる	かろふき	しやとのふ乃
もみぢ葉を	えてのこまのが	秋るげき	さづしつて
きおねり	きもささふ	あさむけ	程きえりあり
ろいごふ	さにかつけつ	あつとてふ	ふらげしつ
ふんさのこ	ふ代よといふ	まけ人乃	あひささるがね
ふどの糸の	もあさひも	あさぎて	よのくおささ
ゆらごらと	おささるも	やらさる乃	まけ葉ごらふ

へらぎの おおせかしこま まれくね 中ふはくそく
 いせの海の 浦乃しながひ ちろひあつせ とねととそれど
 しるれを乃 みどねろろ せひあんを ねがけくし海の
 年減へく ちまうのこ ちさかたね ひるゆるわくむ
 ほふくそ かつりこもせぬ ぶがむどろ ちがまあふる
 けぬけくこ ちまきぬれ ちまきぬれくむ

みうこにくそへくそまつらるるがうい

壬生、たき

くらけ乃 ちねきく なるこそが いらのぬよ乃
 いふくそ おもあこころを のむへまー ちりきむくへ

アツタトイフ あつたてふ	人まほくそま	大まなすナレ うねくさ	おハちもねぐ
えのちあは	あやうてまで	まきくわげ	そ急のそまでの
ちりくねー	今もおおせ乃	くごきあま	ちりかつぎそや
ちりねあふ	つむさるこそま	ちりくくき	こまきあまを
いりへん	くまききぎせ	まきもの	ちりほんちむ
こくちくそ	ちりねあまけも	おりあしげ	ちりくくそらぎ
ほろくしき	かくいわせごと	てねむくそ	ちりねまをの
ちりりーは	くまきは秋乃	くまきう	ちりねまき出て
みうきよふ	ちりへんちの	ちかきまを	ちりくくそくも
あまあしむ	くまのちり	ちりあしむ	ちりくくそくも

きりげりき	今ハ世ハ	らうきさど	昔ハそぼり
しむねぶき	まはつつき	ねきくじし	秋ハあぢい
神をかり	冬もあぢい	せきくはひ	かゝるらびりき
舟ねぐらふ	ほむきき事と	あさきさき	いつのむつお
あさふくり	こきおさひき	ろくろく	おい乃くぞさへ
やよろきバ	ヨハイヤーク	ろくろく	ふもれき
かくーつ	ながしの橋乃	なむろへ	ねふくの浦り
くわりの	あぢいささや	おぢきき	さきぶいのら
そーくさバ	くろくささ	まろやふ	かいらくろく
ねりぬき	おともの橋乃	きんきく	おいむきねむの

くらりどが 天ガハハ代さ 口くえつてんむ
 やよきさびく 今の昔は 物の多き世よきと とうききといふ
 こまじよきい 餘計なものを 考うると 世をさして 物ハハハハ
 ちまねるべし 飯初ハハハ 佛足石 秋の夜ハ 都もさしよきといふ
 ちやを異きしけ やよろきバを 弥過^{イハ}まバといふ 洗むがてし 数乃
 ぶら^{ヨキ}といふを ぶくもろく 又おすおさき^{ヨキ}といふ ちるもいふとせむ
 君ガ代ハ ちやねん 乃い^{ヨキ}といふ かくさ^{ヨキ}といふ ちあひら^{ヨキ}といふ
 ○カヤウナアリガタイ君ノ世ニアウ時モアルモノヲ 今ニテハタビヒタス
 ラウツモレテ居ルフトバツカリモアタ^{ヨキ}ヨアウナ^{ヨキ}カナ
 そのあがう
 元何内躬恒

ちとやが 秋あ月やちや くらよりち くりりしつへび
 うちまご 秋葉よりとふ ちるちる乃 ちりせは心の
 ふあじも まく日ごふ ちりゆけむ ちたささきて
 ちまらじし あつたごれて ちこちり いやうこまねる
 ちの面う むろくちち ちささち ちへおゆりち
 ちる若乃 ちりちて ちるちち ちへあふと
 ちぐーつのか那

七條、后うせはひらりのちあよとまき

仔細方

おき川原 あ色のとよき まはちらひ ちへてまき

いせの海赤心 秋あづし ちちして ちむとちく
 ちりきふ 海のつゆ乃 ちちねち ちわうがち
 ちぬりて 秋のちみち ちちぐち おのちちりぐ
 ちかまたのば ちせかげち ちりちち ちりりのち
 ちささき ちちささち ちささち ちささち
 ち川原の ちきちちつ ちささちちち

旋頭歌

秋ーらび ちみんちらび

ちらほをさちのちち ちちちちちち ちちちちちち
 ちちちちちち

○ウチノワタス アチノカノ人ニワハ物トヒマヨ ソノニニテアル白イ花ハ オノ花
テコガルゾアサテモスナ花ヂヤ 打候モハ尺ノミをこしちぢぢ例等也

かへー

よきさ^はと^はせ^はべ^はろ^はま^はげ^はさ^はく^は尺^はき^はど^はろ^はぬ^は花。ま^はひ^はろ^はく^はふ^はく^はわ
の^はべ^はき^はさ^はめ^はれ^はる^はあ^はと^はや

○コレハ春ニナバ野ヘニツ一畝ガチニサク花デ 尺テモク^ハ尺アカ又花デコガルガ

其名ハ何ゾツカサ子バドウモナサヌ 名デヤノスヤウナヤスイ花ヂヤ コヂ

ラヌ へくへく

。み秋云サシとハ人ノ物を賭るをいふ。
今候おりまひまひハクまうま。

ぢまうま

ろ^は川^はを^は川^はを^は川^はの^はべ^はカ^はニ^は本^はら^はる^は杉^は年^は成^はへ^はろ^は又^はも^はら^はひ^はん^はむ

ニもせし^はろ^は杉

○上 年ガツテ後ニモま^は子^はテ又^は目^はニカ^はラウ 上三句ハ年をへての序

か^はや^は又^は稻^は掛^はち^はよ^はが^はい^はろ^は上^はを^は又^はと^はい^はろ^はひ^は序^はし^はニ^は本^はら^はる^は本^はの

岐^はの^はま^はふ^はつ^はを^はい^はる^はじ

はくゆき

そ^はぐ^はさ^はん^はみ^はく^はを^はれ^は山^は乃^はも^はみ^はぢ^は紫^は花^は色^はか^はを^はお^は月^はま^はぐ^はも^はら^は五^はの
そ^はも^はる^はお^はり^はろ^はじ

○一 三笠山ノお紫ノ色ハ ドウシテアノヤウチヨイ色ニナツタカト思ハ

シグレノ雨ガシツイテ染ツタチヤワイ そ^は免^はる^はハ^はそ^はも^はる^はい

ふ^はさ^はし^は後^はえ^はふ^はそ^はむ^はる^はこ^はを^はそ^はめ^はと^はい^はろ^はハ^は異^はら^はり

誹諧歌

歌一うら

よみ人ーうら

梅、花、見、か、く、ま、つ、ま、う、ぐ、ひ、を、の、人、く、く、と、い、ま、し、ー、と、ま、さ、る。

○梅ノ花ヲ見ニキタノデコソアレ ドウモスルヲデハナイニナセニヤラまゝガ人カ
クル人カクルト唱テ人ノ車ルヲイヤガツテマア居ル

素性法師

ふ、吹、の、花、い、は、げ、ろ、と、ぬ、ー、や、ま、ま、ど、う、ま、ど、ら、あ、し、か、て

○け山吹ノ花ノ色ノ衣ハヌレハ誰ヂヤト上モヘンジセヌ 山吹ハ梅子
ノ色テロカナイニヨツテサ

藤原敏行朝臣

い、く、ど、く、め、田、を、つ、ら、ま、ば、う、ほ、ろ、ぎ、ん、ま、で、の、田、も、げ、お、あ、く、よ、お

○ドレホドノ田ヲ作ルトテ時者ハアノヤウニシテノ多サヲ毎朝ノヨブフゾ

七月六日とねぞとねろろ後をよとろ

後系か袖をき

い、く、く、ま、ま、ま、ま、を、い、お、あ、ま、て、ま、の、川、系、を、ま、あ、ら、む

○今日ハ六日ナバ 天ノ川ハ明日ワヌルヂヤケレヒ 牽牛ガハイツカクト待チ

カ子テ居ル心ヲ 織女ニ見セウヌメニ 今日渡ラウカシラヌ

人お拙さかくと歌りー見まるといふたの流ふをいふあぐとつあこの
をーねるべーな佐日記いづもまままにげあてハ結るびとるんを
えをむとめふ七日おぼるべきを六日にぼるんといつてさして睡をか

きてはるるをわひのうらむのゆく見れば心をいふ何ぞいふ味か
歌一うらむ
元内躬恒

むつぐもまごつきやうふあきぬきりづうハ秋乃長してあよハ
○ムツゴトモ一が答ニデエヌハニハヤ夜がアケル後子ヂヤ 秋ノ長ノ長イ
ト云ハトコガ長イゾ

信正通昭

秋乃長うらむあきささるる女節むあかーかまー花もむささき
○秋ノ堂ニアノヤウニ女は花が大セイヂヤラクラト云テ立テ居ルガ アヤカニ
シヤ アノヤウニ花ヤカナモ一サカリノワツカノるノフヂヤ オツケホシデス苦
レイ物ニナルフバヒラズニアハ

よみ人さしづ

秋くまばあべうらむささきあべうらむのうらむでるべき
○秋ニナレバ堂ヘニジヤツイテ居ル女節花ヲオチテ見ル人ハ誰デモツメ
ツテヌムレルツツテ又者ハナイ 花むを花を摘をうらむ
秋あけさつ然てくまば女節花のささきささきささき
○あかがハレナリクモツツスレバ 女は花らツツレイ決女がサエナリカクレスレ
然るからこのかひでしむべし 餘材チヤととふらうし
花と見てささきむささきを女節むうらむささきあふささき
○女は花ヲ花ヂヤト思フテ折ラウトスレバ 女節ト云名ハヒヨシナ名デモツメ
ドウモサ師ニ手ヲカテ折ラハスミ 餘材チヤととふらうし

のほろほろとまて雅言をそくふもむねまふのこかづひてハ中ぐり
抽ぢくくして用ひるまふ遠あつくまふまふれ文おすもその用
ひくくくやうき他の例どもをり合せてよく考へてゆくべきじ

定おは時まきのまはち合はち 在ふむひやあ

秋風よりほろびぬしむむらぬつてさせてあまらぐくをぬく

○菘袴が秋風テホロビタサチ ソホコビラツクリサせくとミテキリぐスカナク

あまきくくむくくく日とわらぬあらうくくくく風は
やう吹くくくきをえてそのまありへよみくくくくく

きよくくはふやあ

冬ぬぐくまはちおはちちきれハ中垣らりぞ花とちりきふ

○マダマナレド モウの日春がメツ今日デ 近イ春ノトナリギヤニヨツテ サカヒ
ノ垣ノ又カラサソノ喜ノ花がチツテクルワイ

歌くくむ ぶとくくく

いそはくくぬりふくくぬり神まびてくく家ふ家いぞ神くく

○何シデモ年久レウナバ 神ノヤウニ性^{シヤウ}ガ入ルモ^{シヤウ}ヂヤガオレガ恋モ年久レウナツ

タユ^{ニシヤウ}性^{ニシヤウ}ガ入ッテソノ恋ガタツテオレハサ夜^{ニシヤウ}モエ子ムラヌ

花よりぬくくく恋乃せもくくばきむくくおとぞとこおふきを家

○オレハ夜^{ニシヤウ}ル子テ居ルノニ 花ノ方カラモ 跡ノ方カラモ 両方カラ シキリニ恋ト

云^ツ鬼メガセメヨセテ久ニヨツテ 跡^{ニシヤウ}モヨラズサキヘモヨラレズ ドウモシヤウガ

ナサニ 床ノニ中ニサ ガット^{ニシヤウ} 紀テ居ル ちるハ^{ニシヤウ} 臥^{ニシヤウ}ぐして居く

ゆるをいり。やうはきまの。例皆然也。あまの^かし。信のまはし。
おすふ。志を^こ泥り。ねして。えい。と。つら。り。ゆ。

あーきぐか^はもくこそつとときけし。それきどと。おきこちをる

○ドノヤウニ^ニスル人ノ形デモ ヤツナガモホソリナガラモ 身ハアル物チヤトコソ
キケソニオレハ^ハ志デ心ガ心デナセバ 立テ井テモスツテ井テモ け身^{カラ}躰ガドウ
ヤラ^ニイヤウチ心モチガスル 志^ハきかぬと。志^ハまをる人の^{カネ}牙^チをい

へるじ。ちきこちをる。い。お身躰のなきやうふおぢ。し。つら。り。ゆ。き。う。け
うちし。て。き。い。つ。ふ。は。ド。し。て。色。を。れ。ど。と。い。や。も。身。躰。お。つ。ま
て。い。つ。じ。ん。ゆ。つ。く。べ。い。 餘材^ハおすまるとお。上下^ハゆ。き。を。か。あ。り。ど。
り。り。ぬ。や。と。ろ。ろ。こ。が。て。ろ。ろ。き。え。祿。ば。と。い。か。ま。ふ。き。ま。で。ぞ。あ。い。に

○アハズニモ居ラル、モノカト タメシテ^ニニガテラニ アハズニ居レバ ソニナ^ニジャウダシ^トモ
シテ^ハスラレヌホドサ 志^ハシウテ ドウモ 志^ハズニハ居ラレヌ

み。ね。し。ゆ。い。乃。ら。ち。わ。い。え。て。い。か。ま。ひ。乃。つ。ゆ。乃。下。ぞ。め。お。き。む

○ア、耳^ハを^シ山ノ^シ支子^ハが^ホシイ^イ物^チヤ 志^ハノ^ハ色^ハノ^ハ下^ニ染^ニセウ^ニ ソレ^ハ下
染^ラレタナラ 志^ハズ^ハ耳^ハを^シテ^ハ人^モエ^サマイ^シ ロナ^シテ^ハ人^ニニ^シレ^モス^イホ
ドニ^シテ^ハヒト^ニヒ^ノ字^ガアル^ニヨツテ^ハ緋^ノ色^ト云^チヤ

あー^はま^はけ^はい^は田^乃ろ^そわ^づお^のも^さへ^いお^はい^はく^しと^いお^うぬ^きこ^こ

○山^ノ田^ノカ^バシ^ヲス^ルヤ^ウナ^ガシ^サハ^ワシ^ヲソ^ンデ^逢タイ^トイ^フ サ^ラモ^イヤ^ラシ
イ^コニ^ツタ^フヤ 人^をい^やー^をて^もお^のこ^とい^やし。 お^しや^あふ。
あ^やー^はお^をま^へと^つら^うぬ^らぬ^べ。

きのえのや

ぬいねのなうぬあひふもえんばもえ神ぶきとぬむろく煙を

○^ニおあヌあノあヒニム子ノモエルノハキツラ苦イケレハ ^ニハテトモセウツガナイ ^ニモエルナ

ラモエヨサ 富士ノ山ノ神板艾 エハ消シナサイデ ジャウヂウアヒノ煙ニモエサツヤ

ルモノヲ人ヲハソソグヤ 油ハあつてきくふあひの神とつあてし

きのあつらと

つひんまうほくハあまう香あぐろ人ろつきなうとまぢひアをまれ

○アヒタイトアハ腹一パイアリナガラモ ちんニアレル手がリガナニ ドウシタ

ラヨカロカウシタラヨカロカトイウクニ心ガサニヨウワイ シレヲ夜ハ月ヤ星ノコニ

星ハタニトアリナガラモ月ガナイニクワラテスニヨフト云フニシタガ俳諧デゴザル

小あつら

くろくろくついきねさきふハ思ひおきてむねろく火ふんやまをろく

○あつ人ニアレル寄付ノナイあハ ちんヲアアヒガ火ハレルヤウニハツテ胸ガモ

エテエ寐ズニ起テ居ル 二のうみハあハくろくあつらハふりハ

よを写一写さしよそニニのうハ月のみきあハ月をさしてとつあ

のまそそし又おきてあ織をうめてろく火とつら 餘材ふあひて

よりあひおきてとほくあハあつらとつらあハくろくあつらとつらあ

寛あはあまきさのあはあああ 糸糸あまきうぞ

あつらあまきくあべ乃こくあふもなり見てろくあ人ろつあやと

○^五モシあフ人がツムカドウヤ 春ノあへシ若菜ニアナツテツレテ足タイ物チヤ

若菜ハ誰デモツム物チヤウチテ ツマレテ又タイトハ ツメラレテ又タイト云フモゾエ
あ菜といつを。老う人のあきを彩ふさふさるはらう。ままはわう。

秋—うらむ

よみ人さうげ

思へども移らぬまをなまがらうとわらぬ心乃うらうととおむくを

○ワレガ思ウ人ハキツイ性ワルナレバ 方へカ、リアリテ テウド春ノ霞ノ

ドコノ山ヘモカシコノ山ヘモカ、ラ又所ハナイヤウナモノデアラウト思ヘバ 思ヒナ

ガラモヤツリウトくレイ心モチカスル

平貞文

あきの野はあづきあ菜乃はるごふごぶう維のほろくそぞろく

○一二 オレハ女ヲ思フ思ヒガレテウテ

四 ホロくトサ遊ニス

上句ハあきのせはあ菜のうらむまをなまがらうとわらぬ心乃うらうととおむくを
つぎまをなまがらうとわらぬ心乃うらうととおむくを

まのよ—むと

秋のせうあ菜あまはあ菜乃はるごふごぶう維のほろくそぞろく

○毎年く秋ノ野デあ菜アリモセ又あ菜が あ菜ノカヒヨクトサナクガ アレハ

トウレタフモゾ あ菜ニアラバコソ 高ノカヒガアルトハ鳴ウツナ あ菜ノナイノニ

高ノカヒヨト鳴ウツハナイニ けあつたてふをそのうらむをぞと

切てあのまをふえべ。又あのあの花ニあ菜のあつたてふをそのうらむをぞと

みつゝ

あ乃あのいふあうとあ菜あまはあ菜乃はるごふごぶう維のほろくそぞろく

○一 今ラヨソ一向ニウスイニシ

三

駒タラバユクハ厚ウ統ニモヒヨツテキ

サウチ物デハナイカ 駒タラバカタヨツテサウチモノニモル

サウチモノハ

材ヨクハ。但一トモトモむといへハ衣の統ユルモあていつハ。トモトモ。

しんみま

からきぬ乃もつよりあふ福ぬまはの福ぬまちしじくさいひそ

○一イッレヨニ寐サヘセズバ メツタニ名ハタチハスミイホドニ 徳ニカ思ニテオレガカ

ルバカリヲバ ソノヤウニイヤガラニナルナイ

よも人ちうじ

あつハくむバあつむとやハツヒもそぬむがよの中けむいむをねなる

○トテモまてクレヌクラ井ナラ イニツソイヤチヤト云切テニハヨイニ ナゼニイヤ

トモオレ云キラスニ ヒツカハツテ居ルゾ アハ世中ト云モノハ

サウチとむくバの説ハ。けちハカケイといへハ。むごききむく

のといつが俳諧シトふいでやんハ大なきふといつと。日トハいふ

思ふちふ人乃々海のらぬごふまうらまつる家すもハ邪

○オレヲあつくトイッテモ云人ノ心ノ内へもなゴトニイッテ隠テ居テ 実ニニ思フ

ニチガヒナイカ ウツデハナイカ ビツキヤウカヲヌトトケタイモノヤ

あまんとせむむとのといつあまむむやせりありあうひるし

○コレホドニワレハあうをレモ ソレヲ人ハトカク思ハヌトバツカリ云ナバ イヤ

コレカラモウセウマイゾ ちラテモソノカヒガナイ

ふねのいふいふむくべきをいでやうらうらあぬさふ

○思ウくト云ノモ ワレバカリヲモウノナヤ わらべまを ソレテヨイガ いさや イヤモウ 面白ウナ

イ、も人ノ心ハ大麻あはまデサ しゅ手ガまをバドウモ

あはれ思ふ人をおもをぬむくいやこがあ人のあをおもをぬ

○ワレヲモフテクル人ヲ コチカラワレガモフテヤラヌ ムクイカレテ ワレガモフ人
ガワレヲスキリモフテクレヌ

一本 ぬうやぶ

思ひたきし人をおもをぬむくいやこがあ人のあをおもをぬ

○二ハカタ誰ゾオレヲモフ人ガアツタデアラウ せん ニミ 時ニコチカラモも人ヲモウテヤレバ

ヨカツタニ コチカラハハナダデ ソノムクイガキテ 今オレガモフ人ガオレヲモフテクレヌ
ア、アランまモトヤノ まモト云フハオイフカイ キツトアルフチヤワイノ

一本 よめ人ーらだ

出てゆくむ人をぞおもをぬむくいやこがあ人のあをおもをぬ

○出テイナウトスル人ヲ ドモあウレカタガナイニ ドウゾ今ヲ 近近キレビヨナリテタレナリト

クサメヲスレバヨイニ エ、カウエトキニハクサメヲスル人モナイフカナ

くさめあふそえーんもねよとび人をあうふはうつてふあり

○涼ウモウノモドウモねニハナラヌ ま人ヲアイトケレバ ドノヤウニ涼カツ

タ心アテモカハルヤ お灰アけかううをまて 河をまてまり

あつりやーこがあ人のあをねむくいやこがあ人のあをねむくいや

○人ニキラハルワレガ身ハ 春ノ駒カレテ テウド喜ノコロ駒ヲ野カ詞カテラ

ニハナレテヤツテカマハズニオウヤウニ ワレヲスステ、子カラカハヌ

うぐいそはるぞのやどりけあをそや 疾くハ人のつとぬくすくむ

○ワレヒ人ノツチイノハ 一ニ フルイ物ニシテレニウテノ^三カレラヌ ^五カレラヌ

上ニウバ^二ハ^一河のつとむのこし^一チ^一ア^一め^一ぬ^一る^一もの^一ごとく^一と^一ら^一ふ^一ハ^一ら^一し

さ^一か^一っ^一ら^一ふ^一ま^一ち^一人^一ま^一よ^一ま^一は^一の^一さ^一や^一ぐ^一ま^一あ^一と^一が^一む^一ら^一ぬ^一る

○オレモ夏ノ間^ハイ^レコ^サウ^ニ 暑^イニ^ヨツ^テ独^リ寝^ルヲ^スト ^人ナ^ニニ^ユテ ^一ギ^ラカ

レ^テオ^ケレ ^冬ニ^ツテ^ハヤ^ウニ^キイ^夜独^リ寐^ルノ^ハ 何^レモ^モヤ^ウカ^ナイ

卒^ノ中^ノ奥^ノ

を^一さ^一す^一け^一今^一ハ^一も^一つ^一ふ^一お^一り^一ぬ^一ま^一ば^一あ^一ふ^一う^一ら^一で^一ハ^一つ^一き^一ぬ^一く^一り^一ら^一と

○を^一つ^一ら^一モ^一モ^一ウ^一ラ^一デ^一ハ ^ハツ^クナ^コト^ニツ^テ 夜^カフ^テカ^ラデ^ナケ^レバ ^もサ^リヤ^ク

ガ^デテ^ヌヌ^ウイ ^二の^一句^一ぬ^一ま^一ば^一と^一ら^一ふ^一を^一り^一ト^一日^一ふ^一ら^一り^一ぬ^一ま^一を^一

月のおきき^一の^一河^一の^一こ^一し^一は^一ま^一の^一ま^一よ^一り^一を^一け^一さ^一に^一か^一ら^一ん^一だ

た^一の^一お^一わ^一い^一ま^一う^一ら^一ま^一ま^一

丸^一海^一の^一ま^一よ^一り^一の^一ま^一よ^一り^一を^一け^一さ^一に^一か^一ら^一ん^一だ

○名^一世^一山^一ハ^一海^一外^一海^一山^一チ^一ヤ^一ケ^一レ^一 日^一本^一ノ^一吉^一世^一山^一ハ^一オ^一ロ^一カ^一ナ^一ト ^又ト^一ヒ^一ソ^一ナ^一ガ^一唐^一天^一

世^一ノ^一吉^一世^一山^一ノ^一オ^一ク^一ヘ^一コ^一モ^一ツ^一ヌ^一ト^一ニ^一テ^一モ ^我ハ^一も^一も^一ニ^一レ^一跡^一ニ^一シ^一テ^一居^一ヤ^一ウ^一ト^一ハ

也^一ハ^一ヌ ^ドコ^一ニ^一テ^一モ^一ア^一ト^一ラ^一レ^一ヌ^一ウ^一テ^一オ^一ツ^一カ^一ケ^一テ^一ユ^一カ^一ウ^一ト^一サ^一セ^一ウ

た^一の^一ま^一ま^一

を^一さ^一す^一け^一今^一ハ^一も^一つ^一ふ^一お^一り^一ぬ^一ま^一ば^一あ^一ふ^一う^一ら^一で^一ハ^一つ^一き^一ぬ^一く^一り^一ら^一と

○何^一ゾ^一氣^一ニ^一イ^一ラ^一ヌ^一ガ^一ア^一ツ^一テ ^ワレ^一ニ^一ヒ^一ラ^一フ^一ヲ^一止^一ム^一ト^一也^一ラ^一ナ^一ラ ^コチ^一ノ^一心^一ヲ^一ト^一ツ^一ラ

リ^一ト^一定^一メ^一テ^一上^一テ^一コ^一ツ^一ヤ^一メ^一ル^一ナ^一ラ^一止^一メ^一タ^一ガ^一ヨ^一イ ^上キ^一ノ^一カ^一ツ^一テ^一アル^一山^一ノ^一ヤ^一ウ^一チ

モノデコチノ心ハドウガヤヤラ知ハスニニ
カレドレウをさすヲ止メタノハ
アノリヲシカラヌキモノヅレタノヤノ
人々亦しつゝさすはるる
ぬハ信じて 証材はたのてりどを信じて居るは
の徒らなり

伊勢

難波もぬがらぬもはるるなり今ハ
我ガ減るなりととへむ

○今テハ何シテモフルウナテヒウタ物ヲバ
難波ノ長柄ノ槍ニタトヘタチヤガ

ソノ長柄ノ槍モ 今更新シウ出ルタチヤ
スレヤヤウニ人ニアカレテ奮イ

物ニナツテヒウタワレガ身ヲバ
モウテハ何ニタトエウゾ ナニモ壁ニル物モナイ

よみ人さへげ

まゑんおとどなるふそハよきく
かゝるやれみぎてつぎどあきくもは

○オレハ^{ビツテ}実^カニ堅ウ身ヲ持ツナドモ
何ノエイ^カガアルゾ ソレデモナシ

ニモエイ^カハナイ 世^カノ人ハ
斯^カタ萱^カノ乱レタヤウニ乱レテ
ハウラツナ者モアレド

ソレデモサ^カニワレイ^カモナイ
スレヤ実^カニタレム^カフ^カガソ^カチヤ

おきうぜ

何^カそのぬがらぬものきく
やれもちりてよどおはるれむとつら

○ナシノ名ノタツ^カツ^カガカ^カラウ
ムラスレバ名ガタツト
レリナガラ迷^カフ^カハ

オレヒトリカオレバカリチヤナイ
皆サウチヤ

いとけりきくをよふ^カ人のつひ^カ

此酒もれはくそがいに
おる男はくそがいに

を或人のさうくはる
はるまいつとくそふりい
はるまいつとくそふりい

まことけいぬくはさしとまほきし万葉歌ふ例まし考へてお
べし。録材げ何虫のまをほまるか。あをもちたほまり。

くろ

よろわぐくまあふいあはよるといへをいづらりあまぐりうりし

○ソナコトハワヤ姜ニモシラヌ スレヤソノヤウニワレガイトコガワレニモラヌヤウ

ニヨソナガラ云ノハ ソヤホシクテナイチヤ ^四ヌウニソヤウニ云ガリヤ

ソガモシホシクテヤ ワレガ友へ何トゾモカケサウナ物チヤワサテ

三の白いへむいひあまるべし。そのもと云いとあまるはんはほりていへを

とハ家一おきるるべし。録材はほし。まはらにほりてはほりし。

色くハ何れに 糸よる針ふ着るをむして何とさるるべし。

歌一らげ

さぬき

祢ぎよとこのとゆりむやいろそをてハ歎きたあくとおろろえ

○ソヤウニメツタニ人云ヲサテテメレニモカシモフ人カサ ^{ヤウ}ニイニハナギキガシ

ケウナルデアラウワイ 祢ぎこやいろ杜をりてあててしかり

稲掛、大卒がいそく。下句ハ歎きけきハ本小なりて。その本はまげくて

杜とおろろしんとよき。ハ歎きのと切てんはべし。ゆきを後のそし。

なげきのあといふ名取とさるハ此は減んはるるべし。いろりおろろ。

むぐてしよる。あ乃名けらあはらとひるり。此は説くはし。

大補

歎きころるそし。いろりおろろ。あはらとひるり。此は説くはし。

○イロくノ歎キが山やウツモツ多レバヤハモバヒタモノツ臂杖ヲツイテツリヲ頓
ケルウツサナクイ 木とてありて心とてしきとて杖とつくとまをさしてあり

よみ人こころぞ

なまじれをばあるとれとつてして一もきれはらうひま一ありぬべうあり

○意ユエニヤウニ歎キハツガリガツモツテニウツカヒモナイコトナラデアラウニモハル

人こころをこゝろまきあるとふあひましてあふどおきこもわびりありれ

○まきのヲニテウツヤウニユツナイモヲテソニテイツアハルト云時モナイハサニ

モ難ナクテコソアレ 柄とををふうあくとまをさしてあり

よひ乃ちふおて入ゆるみう月れと挽くものあふてあふもつうふ

○上 コノゴロハニアサテモノワリナイ物ヒラスルコトカナ

そへおしてさされバかくこかくまればあつひもつびあきさきさふ

○ドウレタガヨカラウカカワレタガヨカラウカト レウチシノ定メニライコヲイロくニ思案シ

テカテ ヨイレウチヲツヒツイテ サウヂヤト定メテ 一もをリニヌレバ又一方ニサシ

ツカエガアリ 又思案ヲカヘテレテレバ 又一方ニサシツカハルコトガアリ トカク世中

ノコトハ アドドウモナラヌモノチヤ 一方ガヨセバ一方ガワルウテ 三の句は下

ふとわりとふとをさして心はべし上おろりせてけいをさふうおし

録材とあり但しそへのほふたも思案をさしてハあまうこころ

そめ申れうれさびとふおをささバふうれをささへはらりあり

○世中ノウイなゴトニコレバくトモウテ人が身ヲナクヌナラ 死骸ガオビタミウツモツ

テ 深い谷ガサ 浅ウナルデアラウイ けヤウニウイコノ多イコノ中ナバ

在系りやかく

よれ中はいふやうとあつてせむらね人うゝみくほきぞ

○人ゴトニ世ノ中ハタイ物ヂヤクト云テ恨ミルサウ数万人ノ人ニウラミアルコト
ナバ世中後ハサジヤメイワラニモウデアアラウ

よみ人うらむ

何を志ておれつづつふ老ぬる世事おもしろむとぞやさうた

○オレハニア何ヲシテイヤウニキヨツタコヤラ 何ニモセズニキバツカリヨツテ
身ニツモツタ^{トシ}齡ノヒラトコロガサハツカレ

ねきこうぞ

身も志てつんをふとちあつてはしほひいひたうとちるべく

○トテモ立身ナドモエセ子バ けオハモウ無イ物ニシテ居ルヂヤガ セメテハ心ガリ
ナリモ大切ニ持テ ステヨシヤウニハナルマイゾ ソシテ^{つひま}ハドノヤウニナルゾトス
トバケルヤウニサ

ちらむや

こゝろおれらとふこがおのゆるいぬとどむとまきそぬおれぞをきあ

○いぬオハイヤウニキヨツテドモカモ大ニキガウタをレバ 心ハクツラレヌモノデサ ヤツ
ハリ若イ時ニカハラヌワイ ちあふまきしぬとつお河のまてし

よみ人うらむ

うえれをみて乃後のみまじやまに抱くのそ人のいかりせ

○梅ノ花ノ咲テチツテレミウタ跡へん実ハ酸イ物ヂヤガ オハソノ梅ノ実ヂ

何れしき事始ちるも老ふかゝるもみ身さうきてもの世をへ老

○行末千年ニテモ 毎年トシ始メハ け^ニ産リニサ タノイ事ヲ存^カニシツ

クカウワイ 老へ老ハ^ズ極^キのふて極^キむ^シ。 此老の時ハ、お年まで

とといちひてかくのごうのきつとあまをほむといふじ。

日本紀より久くは久くは老美代ナカ

ぬききややせまひらう

あまのゆめづきさうりあまをたまはく時なくおまねゆる哉

○一 葛城山ハ冬ハ雪ノフラヌルト云ハナイガ ソノ葛城山ノ雪ノトホリデワレハ

イツト云フモナレニ ジヤウヂウ君ノ一が思ヒテサテモ忘レルヒ、ノナイヲカチ

あふこがり

何ふこらとあさうちとくさるの世ふしうがぞ唱ふるぬくの世を

○近江カラ今ね夜ノ内ニタツテクバ 字ノ野ニアレ鶴ガサナシワ サア夜ハモウアケルツ

みづきさふら

みづきさふら 妹と何とて寝ての船けのあはありいじ

○山城^{ヲカヤカタ}國ノけ岡屋縣^カテ 妹トオレト寐^ネテ夜ノアケタ今ねノアノ霜ノフリヤウ

ワイノア アノ夜ヲレバ 昨夜^バハキツウヒエタサウナ コチハ二人子タデシホド

ヒエル夜チヤトモ兵ナシニア ぬききハ、きて星の松河に別小老ハ、

又たふあをを飛といふことさふなり。 打交るる、も、彼説のご

そくハ、のち終て、おけおどろく、ハ、おれ、おれ、
。子秋云、うが、さきの考へ、
むづまふく、と、と、

あふこがり

ちまろ山くち出て足さバかきゆひの鳴こまうらういふあーさうぢ

○シハツ山カラズト出テ足バコイデ船小船カアレ 笠セノ嶋ノアメリヲヲワ

沖あそびのい

とろとものい

沖ぐれ乃みむらねらのさうき柴のいまふまがとつひよりと
お八とびおまどかきをなまうねむけまはうべま沖乃きねうと
まのい本根をてまねら掛をいつし本を本根といわをなまう
あひま根とよあままく又忠を忠根をを本根をを本根をを
いお例を根ハゆままきまじバ沖のまねハ沖のまねハゆまま
書くあふあわいの山乃掛柴まきいあうはあまあ沖のまのい

よせハ既ふるけあを巫觀のよとんゆ得てようりともぞあま

まねりけああけらら人ともんしやんソクあやるかづせよ

サヤふふるふさえてかきにけららあふの他の係ふとら

み山ろハけらさぬフルサウナとやまねまをのうづらまづまふらと

うらのくねあぢらのまうまがむう末ニニツコイまよりこまのびくお

まぐどの板井ねしみサトガトホサニまらまら人らあまみまひあきり

いよめけい

さけらあひのらま川り弱とせてまがらあうへうカゲナリトモニヤウニまびくふんせ

かへーまのい

ま柳をかくいふようてまねめあてわりさハ梅乃花がこ

まゝとぬくまび乃中ふあびおきるわそ谷川乃春はさやうと

此方ハ義和の侍まへのまびのふれあ。
千秋云がまへハ大嘗のわをまはう
むとんへを隔るハよとんといへむじ

みよさうや久春はさうふさうくふまがなをそとてあ代やでお

こまのふれをの侍で乃あ他あのう

みのくまはあむら川くえがして君につうへむようげよまでに

あまのえまのぬをみのう

君が母ちかきうりもつじもくぬはまをさぬ敷ハよと侍をそと

こまハ仁和乃侍へのいせのふれう

あまをたうぬぬ

追はのやがこは山はそと侍バのうそとあ君がちとせわ

あまは今上は侍へのうを乃う

東歌

みちのくう

あふらふふあふらふらわらうけきぬとも君をばやらど侍バまを

○アノアノ川へあがズウツトミテ夜がアケタリト 君ヲバヤルセイゾ イナセテ又ニエル

三才待ツアヒガガドウモナラヌ まへ 神ニ白ハくは侍のあまきのみけり

あまの河ふらむもかの侍のまをさうばまをりハらぬれといふでハ

あまの 御村よりあふぬを人よをふよせてといふもあま

みちのくハツゲくハあまど侍がぬれうそとあ乃侍をでかすも

○奥州ニハトコニモカレコニモ面白イ取ハオホクアレドモ 中デモけ侍電ノ

浦ヲアレ綱手デ船ヲ引テユクアノケレキガ ドウモイヘ夕物デハナイ オモ
シロイコトヲヤワマア

こがせこびみやこりやアそ城がめはまがれの崎乃まのぞあーき

○コチノ人ヲ京ヘヤツテ 留守チウ イツモドラルハヤラト 三四 待テ居レバ

サテモあし

をくらぎにみゆらうはの人あふが初のはふつとをまう城

○アノ黒崎ノミツノ小嶋ガ人ナラ 京ヘノミヤゲニイザおイトムテ ツレテイナウ

モノヲ まくらぎにのをいふとせむのをきて 思ふとつふ地名し

みくらぎのいふとまうせふ城をたふらふ下ふはぬうまされ

○は侍^{ハサヒレウ} 所^{カサ} ソレは笠トヤ^{カサ} 上^{カサ} サツレヤレ けま城壁ノ木カラオチルまハ ケシ

カラヌモノデ 雨ヨリモキツウヌマスゾ

わが川のおとばらういあぬのいあふとつづきの月をかり

○上^{カサ} イヤデハナイが け月^{カサ} 中^{カサ} ハドウモナラヌ

のちとばらうのいあふもつづきもつづき

君をおきて何ぐいあふとかりとあはれまの山原もこえあむ

○ドウ云フガアツタト云テモ オヘヲオイトワレハ外ヘ心ヲウツスコトデハナイ モレソ

ナ心ヲワレガ持ツメラ アノ末ノ松山ノ文ヲ 浪ガコエテアラウ ソナレハナイ

チヤハサテ 赤のねとつづきあふとつづきあふとつづき

さか

いようぎの破らからけしつをねつむをばしぬとねゆふをばし

かひい〜

うひがぬをさやふもえ〜がき〜とぬく〜とちぢぬさるさやの中山

○甲斐が嶺ヲハツキリトスエヌ アノサヤノ中山ガ ヨコタワツテアルデ

ツカヘテ ハツキリトスエヌ アノ心ナイサヤノ中山ガ

一本にこせらるゝとつら〜とつら。本をゆてんをも。き〜と〜とい〜とバ。その同じまぬのわ

洞たるをたむの二つ乃れぞや。望ま。但〜ちふぬをさこやるとい〜とバ。くせらるこせ

ららとふせり。ハヤとぞ。

誤らる〜ハあ〜とらる。

甲斐が根を結こ〜と〜と。吹風を人ふもか〜とやあ〜つてやらむ

○峯ヲコシ山ヲコシテ甲斐が根ヲ吹テコエル風ヲ ドウゾ人ニシタイ物ヤナア

ソレヲ京ヘコトツケテヤラウニ

はまも。京より下と居る。玉の目

あどのよあ〜ぬるべ〜。取ほふと〜と〜と。上る。みちの〜とら〜。

みやこのほ〜と〜と。つら〜と。京人のと〜と。味〜と。 飯材の説也。

かひがぬをさ〜とい〜と。を〜と〜と。に〜と〜と。又まぬも。上る。あふ〜とら〜

つら〜と〜と。此方よりハ〜と〜と。ぬ〜。

いせ〜

きぬの浦おう〜とえは〜とあひひさる。ほし乃まももぬ〜ぬも結てか〜と〜と

○上 ナルナラザルハトモカクモ アナニデアラウト イツレヨニ寝テハナシラセウ

わるとハ。父母ぬ〜もゆ〜と。取〜と。ま〜と。ぬ〜と。成〜と。さ〜と。つら。

あ〜と〜と。ぬ〜と〜と。の〜と。

藤原、敏新、新長

ちりやぬ〜かものや〜海の娘小松ようげよぬ〜と色は〜とら〜とら〜し

森と林を本とす。本に書入の墨滅す。今別書く。

よき舟十 物名記

むらりー

はらゆね

そぬ人々もあひくらくらー。けいひきれら乃やるむごよびそむまり

○拙人が材木ヲヒクサウチ。アレコレがキツウヒイテ大せいノ人ゴ正ガスルワ

まら新入下空操上

くらおん

かきつとしてし何をくもる。まきてもえむくくハほのちとけりおー拍を

○死ニ人ノ魂ガソラヲ存ニテ又カツテ本テモ 何ヲ見ヤウゾ 何モ見ル物ハ

ナイ ジンノ死骸ハヤイテニウテ戻ニツタモノ

さうしやる本女別下

くまのおも

はらゆき

あー時とこしつときとバタゴとのおもくまふのそとしそるおか那

○ユフカタニナレバ。ア、今ゴロハモウ人ノ事々ジンチヤガト。まらウゴフテ居レバ

其人カヒタステ面鏡ニ見エテ。サテモ今コノアルクヤウニ足エルヲカナ

あま利あつ

あまのぬ みやこいぬ

さのこすち

あまのぬて。あまのぬややくとらもかききハみやこままべのあまのぬやうりらと

○カラダへ熾火ヲ居テ。身ヲヤクヨリモカナレハ。京ト嶋ベトノ別レチ

コトカナ

ヤモリ十三

あしこいちふまをへ業の下

ひぬくもれとこ乃ふるし^はや川^はりごとこへよこがなむらむら

○モシ人が向^マナラ 上ソチ^ハドウ^チヤカ^レヌ^トマ^チヤ^ヅ必^ス我^名ヲ^モス

テハナヅ 奇^ズル^ル業^の此^方バ^とれ^るや^うい^くと^がり

訓^もあ^りる^業お^つい^とと^を寸^許餘^名告^奈い^て

あ^らむ^とは^ドま^しき^こせ^まの^こぬ^へと^りあ^はは^し

い^うと^らる^人あ^はれ^みの^らあ^れい^ふれ^つ

かへし

い^ふへ^のい^そま^らむ^ら

い^いぬ^るき^ぬの^いぬ^のき^にい^ふ人^乃も^るべ^くこ^があ^いを^やと
ま^をす^ナ也

あ^まあ^てあ^まの^いや^れを^て下

そ^とわ^たを^めれ^ひり^ぬて^みを^ばい^くて^まら^うて

こ^がせ^こぐ^くべ^きよ^ひあ^りる^ふれ^らと^のあ^まい^くて^まら^うて

○ヨヒ^ハ必^ス出^カアラ^ウト^思ハ^レ夜^チヤ^アレ^アノ^蛛ノ^スル^テサ^ウチ^ヤト^云フ^カ

サ^キハ^ヨウ^シル^ワア^ア 蝶^をさ^うが^ふと^いか^ち解^かふ^はて^小き^よう^い

体^表文^意と^ハい^がぬ^づけ^いむ^こと^なら^うむ^下

若^く

そ^こら^らば^はい^ふも^ゆを^はみ^のえ^れる^あふ^てあ^まい^れる

醫書之部	醫家千字文	冢田物
積聚編	痘疹妙藥集	冢註周易
備考方	妙藥手引草	同正文
提耳談	易書之部	同毛詩
溫疫論	增補卜筮盲筭	同正文
藥品考	同文政再板	同六記
古方通覽	同增續	同老子
方書摘要	同大全	左傳增註
經穴秘授	同極秘	孟子斷
醫事古言	同卦象解	昼錦行
吐方撮要	易道早合点	作詩質的
的治療方	人相早合点	江尾往還蹤
		目二

尾陽東壁堂製本畧目錄

和書之部	萬葉集畧解	伊勢物語
古事記傳	古今集遠鏡	玉勝間
同目錄	後撰集新抄	玉くし
神代正語	同別記	ほまみの鏡
神壽後釋	新古今集抄	江戸職人哥合
直毘靈	美濃の家苞	御遷幸長哥
萬我の比禮	同折添	八日坊日記
葛花	尾張の家苞と	志みの住家物語
三大考	源氏物語手枕	狂歌作者部類
冠位通考	三代調類題	和歌五百題
		二

經書之部	羣書治要	四書集註道春点	同上紙	同片假名附	文選李善註	毛詩國字辨	孝經鄭註	同指解	服膺孝語	國語定本	莊子因
	里七	十	十	四	十	十	一	一	一	六	六
明李遺聞	牧民忠告解	女のまゝ	傳子	常語數	物數稱謂	律數揚權	介翁茶史	六諭衍義大意抄		詩集之部	三野風雅
四	一	一	一	二	一	二	二	一			五
誹書之部	枇杷園發句集	同後編	同類題發句集	同三日月集	同麻苜集	同雀芝集	同五七集	同鳶の眼	同瓢日記	同菴の犬	同法々花經
	二	二	二	一	一	一	五	一	一	一	一

物品識名	同拾遺	蘭藥鏡原	醫生堂雜話	内外要方	同二編	同三編	同四編	傷寒論持解	宋板傷寒論	同上紙	同正文
二	二	三	一	四	二	二	四	六	三	三	一
佛書之部	歎迦應化畧諺解	宗門畧列祖傳	釜斯幾	閑居忘草	圓戒琢磨訣	圓光大師御傳略贊	永平道元行狀圖	觀音施魚畏圖	現生護念之圖	菩薩戒童蒙談抄	唐士談語
	一	四	一	二	一	二	二	一	一	一	一
論語群疑考	大峯文集	滑川談	隨意錄	天文曆學之部	天文候鑑	天文候鑑	日用曆談	觀象圖說	晴雨管規	晴雨考	
十	七	一	十		一	一	一	三	一	一	

手本物之部	獲山詩哥帖	正面摺之部
長雄書札集	同乞巧帖	王由敢寸珍孝經
長松貴札帖	同年中帖	漢魏隸書帖
空洞書翰	同尺一集	九疑山碑
大橋遺帖	同千字文	郭有道碑
同改年帖	同書通案文	義之周府君碑
同今川狀	同書札法帖	李邕沙羅樹碑
同池凍帖	同嵯峨名所	渤海藏真帖
同書用集	同四季かき文	東坡自我帖
同當用集	同清風帖	同大江帖
同書札集	同私用集	同歸去來詩帖
同新消息	同筆用集	董其昌天馬賦

同初學手本	定家朗詠	同衆鳥帖
同かき手本	行成朗詠	同秣陵帖
同庭訓往來	二節詩哥撒英	道風草書帖
同風月往來	消息案文	信海三十六歌仙
同明衡往來	立花當用集	陋室銘
同商賣往來	琴曲桃の宴	
同江戸往來	箏曲大意抄	草木性譜
同江戸名所	同ニッ輪入	草木有毒圖說
御家書札文海		
同當時用文章	武家俗説弁	諸禮大學
同永代用文章		同上紙
同早速千字文	神術極秘卷	十躰千字文

字引節用之部	將碁之部	百人首之部
滿字節用錦字選	將碁道標	棲鳳百人
同中紙	同觀手	同上紙
同上紙	同金襖	蓬萊百人
早字節用集	同鷲爪	同上紙
同上紙	同定跡	吾妻百人
同大全	同連珠	同上紙
同上紙	同名家友	錦葉百人
同真字附	同古今集	同上紙
同上紙	同相掛集	麗玉百人
四聲節用集	同指南車	同上紙
同上紙	同百番筭	今樣百人

手紙早引集	同自在	同上紙
永樂古狀揃	渡世肝要記	女今川貞操鑑
同上紙	同二編	同上紙
同假名附	碁經之部	
同上紙	碁經奕範	東穗錄
初學古狀揃	同奕筌	同二編
同上紙	碁立手談	彼此合府
同假名附		延壽養生談
同上紙	大日本國郡全圖	養生要論

東都 書物問屋

尾州名古屋本町通七丁目
江戸日本橋通本銀町二百
濃州大垣本町

永樂屋東四郎
同 出店
同 出店

